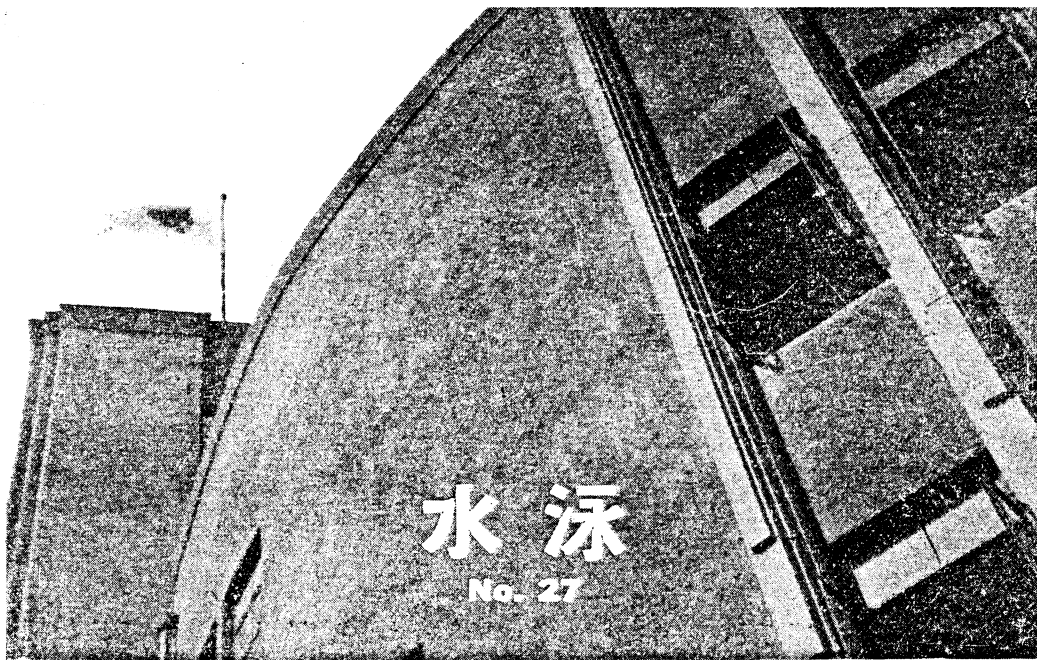


水泳

1934 NO 27

日本水上競技聯盟機關雜誌



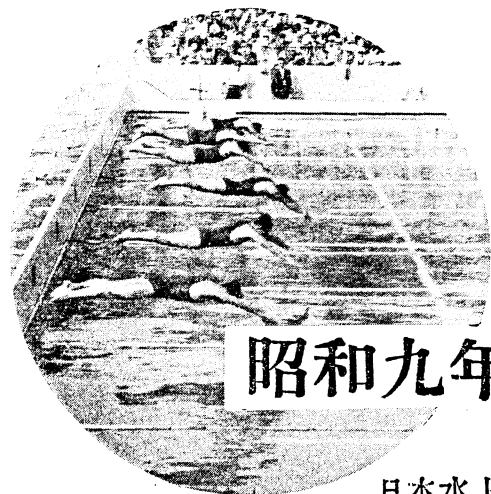


日本水上競技聯盟・機關雜誌

全國學生水上競技大會號

目次

昭和九年度の水泳界は凶作か？……………名譽主事 松澤一鶴(2)	
本年度國際水泳聯盟理事會に就いて……………安部輝太郎(4)	
全國學生水上競技大會・公式記録……………穴道洋一(5)	
秋季全國學生水球リーグ戰評並びに駄足……………木村水牛(12)	
全國學生飛込競技會……………原秀夫(14)	
各大學・練習法・檢討……………日本水上競技聯盟編輯委員(16)	
消息欄……………(18)	
競泳を語るの會・クロール篇……………(19)	
本年度水泳指導者講習會概況……………小林三次(22)	
第二回東京小學校大會報告……………(23)	
第二回關東・中部・關西三地方對抗女子大會……………市口房子(23)	
三地方の飛込競技に就いて……………島崎惠美子(24)	
雜句場欄……………(25)	
小堀流後繼決定……………白山源三郎(26)	
海外情報・歐洲選手權・歐米近況……………(27)	
會報欄・昭和九年成國際水泳聯盟理事會議事録・NSR日記……………(29)	
表紙及び題字 池田木一……………	漫畫 スギタ・サンタロ



昭和九年水泳界は凶作か？

日本水上競技聯盟名譽主事 松澤一鶴

第十回の極東大會に依て早目に明けた今年の水泳界は早目にシーズンを打切つて、例年の様に記録公認もベスト・テンの整理も終了したし、清川、阪上兩選手を濠洲に送り、齋藤巍洋君をコーチとしてブラデルに派遣して、昭和九年度の水泳プログラムは全部完了した事となる。

そして今年の我々のバランス・シートの上には不振であつたと云ふ感じが残る。しかし一つ一つの結果に就いて論じて行くなれば主なる競技會の結果は必しも悪い譯では無いのであるから、總體の收穫に就いて公平に見るならば今年も相當の成績であつたと云ふ方が正しいとは信じて居る。一部分の無理解から起つた悲しむべき騒動沙汰の最中に行はれたにも拘らず極東豫選會の立派な成績、マニラの暑熱と戦ひ乍ら獲た勝利、日本選手權大會に於ては米國の最強プレーヤーを相手に一方には意外な敗戦もあつたが、他方には又輝しき結果も得られて居る。又夏の頃不調であつた人達が秋のインターカレヂには美事に恢復して立派に不評を精算した。とかう考へて來るならば決して結果不良とは云へぬ。事實は寧ろ相當なる收穫を見たと思ふべきであらう。

然し乍ら我々水上競技人はさう云ふ事實であるにも拘らず、不振であつたと云ふ感じを拂ひ得ないで居る。極東大會も勝つては居るが、レースらしいレースとして期待した平泳に東洋選手權を逸して終つた。選手權大會に招聘した無名のヴァンデウエー君に背泳選手權を獨專されて意外の目を瞪り、世界レコードホルダーであるメヂカ君には遂に四百米自由形をものされて了つて、此巨豪を屠つた新進根上君の功績より彼の四百に於ける戦功の方が我々には強く響いて居るし、公認された日本記録が量に於て此の二三年に較べると少いと云ふ淋しさも手傳つて、吾人にはどうしても今年の成績が悪かつたと思はざるを得ないのである。茲に彼等米國選手に對し意外の敗戦だつたなどと云ふ事も考へて見ると我等の己惚れに外ならぬのではないか。その有名無名なるに拘らず、その力量に於ては確かに世界の一流圏内に互する人達に對し當然我水上軍が勝つべきものであると考へて居るのでなければ意外の敗戦とは觀じ得ない。羅府の祝盃に酔つて居てはならぬと自ら戒めの爲に米國選手を招聘した積りではあつたが、そう云ふ口の下から我が力量の過信が拭ひ切れずに居つた事を曝露されて終つたのである。此は危い事であつた。要は申すまでもない事ながら、我等競技人の世界戦たるオリンピックに對しても覺悟を新にすべきである。運よく勝つた羅府大會の成績を當然と思つて居つてはならないと云ふのに盡きるのである。

我々水泳人が外に對しての心構へは以上の如く、今年あまり面白く無かつたから、來年、さ來年は充分に頑張りますと云へば充分であるが、内部の問題としては此を此の儘に概念的に受け容れて居つては却つていけない事もある。悪かつた理由ももう少し皆で考へる必要があるし、己惚れを絶対に排してその代り眞の自己力量を自覺し、將來に備へなければならぬと思ふ。決して申譯でも強辨でも無いが、敢て悪かつたと云はれる諸點を検

討して全般の回顧に代へやうと思ふ。

例の如くに本誌次號に掲載されるベスト・テンの表を見られれば一層よく了解して戴けると思ふが、男子競泳に於ては各種目の上位者が概して不調であつたが、中堅の選手諸君は却つて例年より向上して居り、若干の種目を除いては平均の成績は進歩して居るのである。故に今年是不振とは言ひ難いと云つては大變な間違ひであるが、心配するには早すぎると云ふ證明にはなると思ふ。何と云つても我々は競技人であるから事の勝敗が眞つ先に氣にかゝる。故に各種目の勝敗を握る上位者の不調は即ち我が水泳界の不振であると斷ぜられてもさらさら不平を云ふ心持はない。短距離に於て遊佐君は秋になつて多少は恢復したものととうとう調子は出ず終ひであつた。中距離も全滅、以てメヂカに暴威を振はれた所以であらう。長距離では夏には根上君が死力を盡して新進の氣鋭を見せ、秋には牧野君が調子を恢復して、此が夏に出たらばと慨歎之を久しくせしめた、就中背泳全敗の報は我々鼓膜に穴のあく思ひがした。尤も羅府オリンピックの前に於ては此の種目が最も望み薄き種目の一つであつた事はつひ忘れて終つて居るが、其の折に日本全勝の榮譽を得て居つた種目だけに驚きは一入だつた譯である。

此等の原因に就ては極東大會のマニラ遠征の疲勞の爲、或は不調となり、或は甚しき者は病氣に迄なつた爲であると云はれて居り、自分も確かに其が一因であることは認めるが、同時に此大會の参加と云ふ事が競技者として、勿論油斷や冗談では無かつたらうが、技術的ニ眞劍となり得ぬ程度のものであつた事の弊害が、歸つて來てからの調子をこはすのに一層拍車をかけた事を忘れてはならぬと思ふ。種々の問題でいやな思ひをしてまで出かけて呉れてその上こんな事になつて終つた選手諸君は思へば非常に御氣の毒であつたし、日本の水泳界にとつてはこれ程の不幸は無かつたのである。

しかしそれでは極東大會を要心して避けたならば依然として好調を待し得られたかどうかは疑問である。自分は以上の外に擧げ得られる理由としては、オリンピックの中間年に當つて居るからだと思ふ事を指摘して置きたい。現代我々が羅府大會終了後直に思ひを來るべき一九三六年の伯林オリンピック大會に致して諸準備を進めて居る事は屢々言ひ來つた所であるが、來るべき大會に羅府大會以上の成果を求めんが爲に逐年直線狀に進歩して行けば最も着實で理想的であるが、人生諸般何事も一本調子を望み得ないとすれば其の間自ら波動的となるを免れぬと思ふ。かゝる意味に於て今年水泳が稍々滯滞氣味であつた事は寧ろ當然起り得べき現象であつたとも見得るのであるし、換言すれば之があるが爲に、來年、さ來年は再び飛躍して三六年に於て最高調にぶつける事も可能である事を豫約して居ると云つてもよいのではあるまいか。自ら慰める言葉であつてはならないが、斯く信じて將來へ進みたい。

思へば第十回オリンピック大會を終了した時、我々水泳チームの者は「此の若い元氣な優勝者等が衰へると云ふ様な感じはしないが、更に次回に勝つ爲には此等の人達が依然としてスターであつては危い。此等の人達が經驗者として中堅となり最悪の場合の殿を承る位で更に前線を確保するだけの新進を加へたチームを伯林へ送らねばならぬ」と感じたのであつたが、今年の成績は此の輝かしい希望を實現せしめ得る事を指し示して居るのではないかと私に信じて居る。上位者のみが進歩しないのならば非常に憂慮すべきであらうが後繼者の進歩が明瞭であるのは何より心強い。アムステルダムの大會前、羅府大會までの中間年に類似の現象も見られるのであるから、自分はかく信じて將來を樂みに今年の成績を必しも心配しては居ない。

かく論じたからとともう現代の上位者に見限りを付たと云ふのではなく、此等の諸君の努力こそ今後の新進を世界に押出す上に最も大切なる存在である、前回オリンピックに於ける高石勝男君の如き或は陸上の識田幹雄君の如き尊き努力の跡を忘れてはなるまい。

今年の成績が悪かつたと評するならば我々は何も其を否まない。然し水上競技人は決して此に抗辯はせず更に將來への飛躍へ黙々として努力しやう。(一九三四・一二・二〇)

本年度國際水泳聯盟理事會に就て

安部 輝 太郎

本誌會報欄 29 頁に譯出してある頭書理事會に對する當方の意見を二三述べてみる。

一、議事録第八・九に出て居るアマチュア資格問題は吾々は成る可く簡單主義で實質的に決定的な統制力の發動が望ましいのだが、お歴々の云ふ様に文面丈けをヤカマシクすると却つて結局 F.I.N.A. の無力を暴露する様な始末になりはせぬかと思ふ。

二、議事録第一〇に非加盟國であるソビエトロシアとの競技を禁じてゐる(規則第二四條通り)が、これは差當り日本でも一寸考へねばならぬことである。といふのは手近に滿洲國(非加盟國)あり印度(會費不拂による加盟權喪失國)があるからである。東洋選手權大會を行ふ際等正直に F.I.N.A. に義理立しやうとすると大分面倒なことになる。

三、議事録第二七に謂ふ日本の提案は F.I.N.A. 規則及びオリンピック競技に關する不合理や矛盾を指摘し其の改正を提唱したもののだが、アツサリ一九三六年の總會に廻されて了つた。斯うなることゝ知つてゐたので豫ねて一九三六年總會を目標として居つたのにドナート主事の申出があつたので理事會に提議したのが無駄になつたやうでもあるが内容は確かに理事會に徹底したからには、一九三六年の會議の準備過程としては大いに有意義であつたと思ふ。

四、世界記録の取扱法

現に右議事録第二九にある古い世界記録の取消は吾々の主張の一端であり、第二八に問題となつた記録證發行の時期も吾々の意見に基くものだが其の結論は「後で取消の恐れはあつても直ちに發行する」はまあ良いとしても「歐洲以外で新記録が出た場合は電報を要す」に至つては問題外で、世界記録の大半が日米兩國で破られる今日の狀態に對して潜越と云ふべきのみか、且て本誌第 23 號拙稿に述べた通り現在の様な不鮮明な世界記録定義の下に於て、果して今世界記録なのか如何かハッキリしない様な新記録

の度毎に何十本も電報を打てるものぢやない。尤も電報料向ふ持ならドシドシ打つても良いと思つて電信局に聞いたら其の手は利かぬさうだから或は F.I.N.A. が時々刻々の世界記録を常に吾が聯盟に電報して寄越す氣なら、此方も打電しても良からう。何れにしても又反駁ものである。

五、變態平泳のこと。

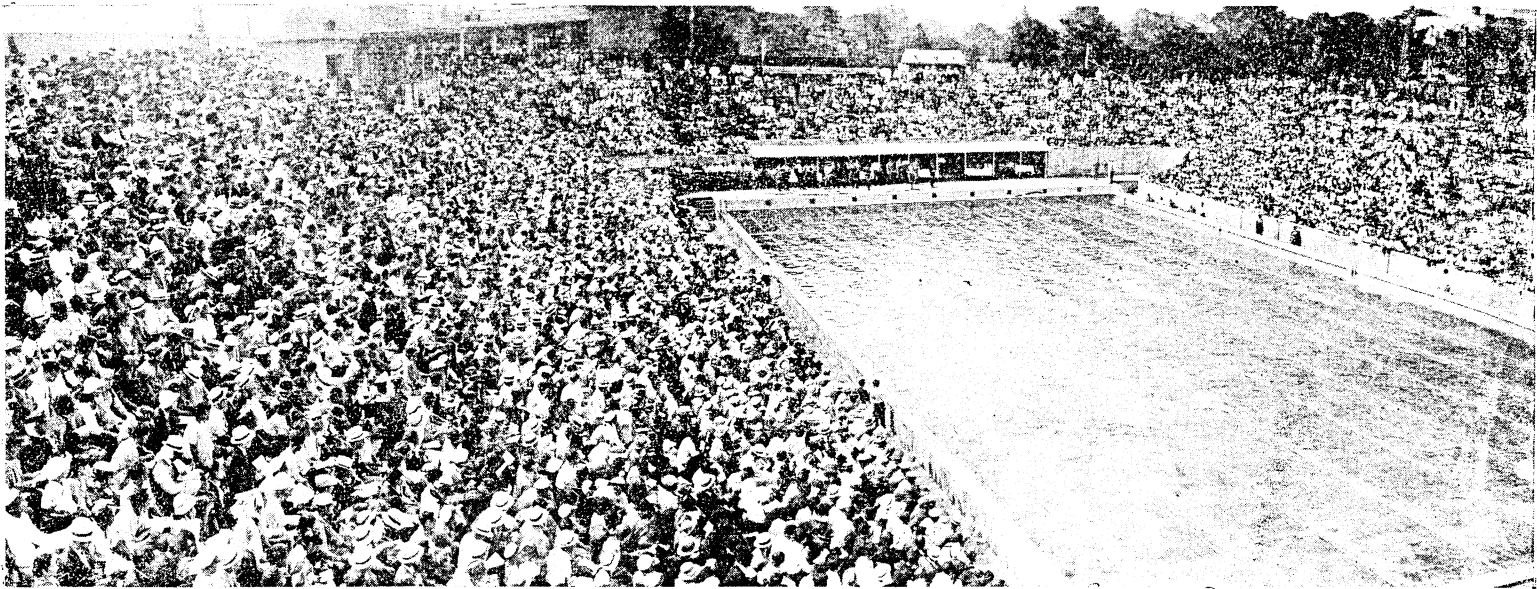
議事録第一二、チエコスロバキアに對する裁定に「平泳のターニング及ゴールで兩手は同時には着かなくてはならぬが高さは異つても良い」といふのは成る程現行規程の字句解釋から行けば、さうコジツケられぬこともないが、奇妙な裁定をしたものである。

次の第一三に米國からの「拔手平泳」に對しては矢張り「規則上差支なし」として居るが、理事會は斯る平泳を好まず、適當に規則を改める様總會に提議しやうとしてゐる。前の兩手を上下してタッチするのを問題無く認める位なら「拔手平泳」の方が未だ理窟に合つて居る様に吾々には思はれる位だ。斯うなると今に「拔足平泳は如何で？」なんと云ふ連中も出て來るかも知れない。

何れにしても F.I.N.A. 規則相手の角力も一九三六年迄お預けの形なので吾々も齒痒いが、同好諸賢もしばらく御辛棒願はねばならぬ。其迄毎年世界記録の一打宛も作り、ベルリン大會でも牛耳る外溜飲の下け場も無いが、まあボチボチ F.I.N.A. を突啄いておくことにしやう。

ベルリン、オリンピックプールの水溫は二一乃至二二度に保たれる豫定といふから一八度よりは充分條件がよくなるわけだ。

尙同大會には電氣計時器が副用されるといふが之も何處迄頼れるか？ といふより審判結果との喰ひ違ひから抗議の種として絶好位の處だらう、マニラの極東大會の時の様に日本の役員は手の早い處で何より證據の電氣記録紙を召し上げるのが上手な人を撰びますかね。(會報欄 F.I.N.A. 理事會議事録參照) 以上



第十三回全國學生水上競技大會

本年度水上競技の棹尾を飾る第十三回全國學生競泳大會は九月十四、十五、十六日の三日間神宮プールに於て舉行、選手の快調は當日の良コンディションと相俟つて好記録續出、日本選手權大會で見た沈滞さは全く消し飛んで世界新記録四つと言ふ素晴らしい收穫を挙げたのである。参加校は一部八校、二部廿一校で競技の結果一部無得點の文理大と商船は二部へ、又二部上位の法政、帝大、名古屋高商の三校は一部に昇進することになった。以下公式記録である。

一部 戦績

50米自由形

- 豫選 A. 1. 阪上安太郎 (早大) ———— 0:26.6
 2. 豊田久吉 (日大) ———— 0:27.4
 3. 下平登 (明大) ———— 0:28.4
 B. 1. 河石達吾 (慶大) ———— 0:26.8
 2. 五十嵐伊市郎 (早大) ———— 0:27.0
 3. 高橋三郎 (商大) ———— 0:29.4
 C. 1. 高橋成夫 (早大) —大會新— 0:26.2
 2. 由本重善 (立大) ———— 0:28.2
 3. 浦部秀夫 (文理大) ———— 0:28.4
 D. 1. 片山兼吉 (明大) ———— 0:27.6
 2. 安岡正博 (日大) ———— 0:28.8
 3. 坂本博司 (文理大) ———— 0:28.8
 D組に出場の筈の竹村公良君 (早大) は病氣の爲棄權。
 準決勝 A. 1. 高橋成夫 (早大) —日本對— 0:26.0
 2. 五十嵐伊市郎 (早大) ———— 0:27.2
 3. 片山兼吉 (明大) ———— 0:27.8
 B. 1. 阪上安太郎 (早大) ———— 0:26.6
 2. 河石達吾 (慶大) ———— 0:27.0

3. 豊田久吉 (日大) ———— 0:27.0
 決勝 1. 高橋成夫 (早大) —日本新— 0:25.8
 2. 阪上安太郎 (早大) —大會新— 0:26.4
 3. 河石達吾 (慶大) ———— 0:26.8
 4. 豊田久吉 (日大) ———— 0:26.8
 5. 五十嵐伊市郎 (早大)
 6. 片山兼吉 (明大)

準決勝を通過した者は順當な顔觸れであるが、新人五十嵐 (酒田商業出身) の活躍は竹村の故障を補ふに充分であつた。高橋も短距離泳者としての風貌を漸く備へるに至り、待望の25秒臺を實現したのは阪上の大會對記録と共に大に買つてやらねばなるまい。

100米自由形

- 豫選 A. 1. 高橋成夫 (早大) ———— 1:00.2
 2. 杉本盛 (日大) ———— 1:01.4
 3. 下平登 (明大) ———— 1:04.2
 4. 田野耕清 (立大) ———— 1:06.0
 B. 1. 阪上安太郎 (早大) ———— 1:00.0
 2. 志村義久 (早大) ———— 1:00.6
 3. 豊田久吉 (日大) ———— 1:02.8
 4. 森博 (慶大) ———— 1:06.0

- C.1. 遊佐 正憲 (日 大) -----0:58.4
- 2. 横山 隆志 (早 大) -----1:01.6
- 3. 河石 達吾 (慶 大) -----1:01.8
- 4. 鶴岡 榮 (立 大) -----1:02.2

C組で明大主將大横田が鶴岡と接戦して落選したのは意外であつた。

- 準決勝A.1. 志村 義久 (早 大) -----1:00.0
- 2. 阪上 安太郎 (早 大) -----1:00.2
 - 3. 杉本 盛 (日 大) -----1:00.6
- 落 河石 達吾 (慶 大)

- B.1. 遊佐 正憲 (日 大) -----0:58.8
- 2. 高橋 成夫 (早 大) -----1:00.2
 - 3. 横山 隆志 (早 大) -----1:00.4
- 落 豊田 久吉 (日 大)

- 決勝 1. 遊佐 正憲 (日 大) -----0:58.2
- 2. 高橋 成夫 (早 大) -----0:59.8
 - 3. 杉本 盛 (日 大) -----1:00.2
 - 4. 横山 隆志 (早 大)
 - 5. 志村 義久 (早 大)
 - 6. 阪上 安太郎 (早 大)

此の種目は横山、杉本等の中距離からの轉向で大に賑はつた。而も此等の人達が短距離界で定評のある河石、豊田を蹴落して堂々と決勝に残つたのは全く目覺しなかつた。極東以後のスラムプを脱した遊佐の優勝は論外として準決勝通過をさへ危まれた杉本が阪上、志村等の早大群を尻目に三着に喰ひ込んだのは、豊田の落選に引き返へて日大の大きな収穫であつたのみならず、近來不振の我が短距離界の輝しき功績である。準決勝で1分フラットを出しながら決勝で香しくなかつた志村の弱氣はともかく、元氣な闘志満々の阪上がビリになつたのはどう考へても腑に落ちない。

200米自由形

- 豫選 A. 1. 田中 一雄 (早 大) -----2:19.6
- 2. 中村 強輔 (日 大) -----2:22.8



100米自一部決勝ゴール遊佐已にタツチ



200米に於ける遊佐の力強いストローク



(一)火花を散らした一部50米自決勝、25米選

- 3. 武村 寅雄 (明 大) -----2:23.0
- 4. 鶴岡 榮 (立 大) -----2:23.8
- B.1. 片岡 寅次郎 (早 大) -----2:18.3
- 2. 大横田 勉 (明 大) -----2:19.0
- 3. 杉本 盛 (日 大) -----2:19.0
- 4. 横山 隆志 (早 大) -----2:19.6

- C.1. 新聞 六炳 (早 大) -----2:15.4
- 2. 遊佐 正憲 (日 大) -----2:15.6
 - 3. 田端 三郎 (慶 大) -----2:24.4
 - 4. 河野 隼 (明 大) -----2:28.8

- 準決勝A.1. 遊佐 正憲 (日 大) -----2:16.6
- 2. 片岡 寅次郎 (早 大) -----2:19.0
 - 3. 横山 隆志 (早 大) -----2:19.2
- B.1. 新聞 六炳 (早 大) -----2:17.6
- 2. 杉本 盛 (日 大) -----2:18.2
 - 3. 田中 一男 (早 大) -----参考-----2:18.2
- 落 大横田 勉 (明 大)

- 決勝 1. 遊佐 正憲 (日 大) -----2:14.0
- 2. 新聞 六炳 (早 大) -----2:16.8
 - 3. 片岡 寅次郎 (早 大) -----2:17.0
 - 4. 田中 一男 (早 大) -----2:17.8
 - 5. 杉本 盛 (日 大)
 - 6. 横山 隆志 (早 大)

新聞に極東大會當時の元氣がない以上、遊佐の優勝は確定的なものであつたが100で意外に活躍をした杉本が3着になつたのは、長年埋木であつた田中の躍進と共に注目に値する。片岡は非常に元氣に泳ぎベストレコードを出して3着になつたのは彼の實力の然らしむる所であり横山の不振は大横田の落選と考へ合せて一抹の淋しさを感じず。

400米自由形

- 豫選 A. 1. 牧野 正藏 (早 大) -----大會新-----4:47.6
- 2. 根上 博 (立 大) -----大會新-----4:49.8

- 3. 石田原 愿 (明 大) ————— 4:59.4
- 4. 田中 一男 (早 大) ————— 5:05.8
- B. 1. 新聞 六炳 (早 大) ————— 4:57.4
- 2. 永見 達明 (早 大) ————— 5:00.4
- 3. 武村 寅雄 (明 大) ————— 5:04.6
- 4. 本田 惣一郎 (立 大) ————— 5:04.8

- 決勝**
- 1. 牧野 正藏 (早 大) —大會新— 4:46.6
 - 2. 根上 博 (立 大) —大會新— 4:47.0
 - 3. 新聞 六炳 (早 大) ————— 4:55.8
 - 4. 石原田 愿 (明 大) ————— 4:55.8
 - 5. 永見 達明 (早 大)
 - 6. 本田 惣一郎 (立 大)

牧野對根上の對戦は 800 と共に本大會の白眉であつた。根上はホームプールで 4 分 43 秒 0 の驚異的な記録を出して氣を吐けば牧野は恰も此に對抗するものゝ如く 800 に 10 分を割る超人的レコードを見せ、根上の飛出が成功するか、牧野のラストが物を言ふかは彌が上にもファンを興奮させた。レースは果然根上のリードで 200・300・350 と進み流石の牧野も今度はしてやられるかと思はれたが最後の 25 米で牧野獨特の物凄いラストスピートが一艇身の差をつけてしまつた。牧野は實に鮮かに勝つたが根上もよく戦つてくれた。凡そ一國內でこれだけの取組を見せる國が他にあらうか、世界記録は 0.2 秒の差で破り得なかつたが、それでも八月のメヂカは問題ではない。前年度優勝者石原田は此の二人に押されてか餘りパツトしなかつた。強敵に會つても實力を充分に出し得るだけのバネが同君に欲しいものである

800米自由形

- 豫選 A. 1. 牧野 正藏 (早 大) —世界新— 10:07.2
- 2. 永見 達明 (早 大) ————— 10:24.6
 - 3. 本田 惣一郎 (立 大) ————— 10:29.6
 - 4. 森原 幸彦 (日 大) —参考— 10:57.8
- 牧野のラップタイム、 1:07.8 2:22.0 3:38.2
4:55.6 6:13.0 日本新(計時正式) 7:30.8 8:50.4

- B. 1. 根上 博 (立 大) —大會新— 10:11.6
 - 2. 石田原 愿 (明 大) ————— 10:33.4
 - 3. 片岡 寅次郎 (早 大) ————— 10:38.8
 - 4. 桑野 正實 (日 大) —参考— 11:19.0
- 根上のラップタイム、 1:07.2 2:21.6 3:38.2
4:56.2 6:15.6 (正式計時) 7:34.0 8:53.4

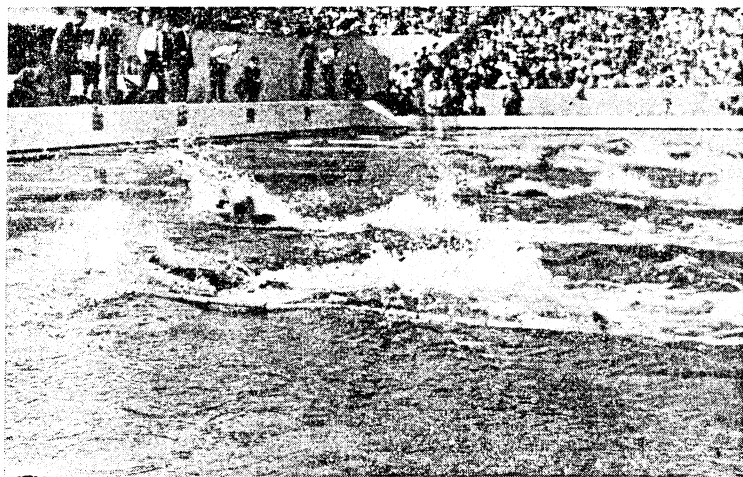
- 決勝**
- 1. 牧野 正藏 (早 大) —世界新— 10:01.2
 - 2. 根上 博 (立 大) —世界新— 10:08.4
 - 3. 石田原 愿 (明 大) —大會新— 10:17.0
 - 4. 永見 達明 (早 大) ————— 10:18.4
 - 5. 本田 惣一郎 (立 大) 永見とタツチの差
 - 6. 片岡 寅次郎 (早 大)

牧野のラップタイム、 1:09.2 2:24.0 3:39.8 4:57.0
6:13.3 7:29.4 8:46.4 尙日大の桑野は棄權した。

400 で根上を押へた牧野が此の種目の覇權をも奪ふであらふといふことは誰も考へて居た。果然 400 で既に根上に追ひ付き益々好調、遂に超人的驚異的、大記録を實現した。根上も牧野にリードされて苦しみつゝもレースを棄てず之又世界記録を作つたのは同君のレースに對する眞面目な氣持がうかゞはれて嬉しい。一競技に一、二着共世界記録等といふのは日本に於て始めて成し得る大業であつて水上日本の誇りは益々その基礎を固めて行く。三着以下も見逃さない、最後の折返し迄永見、本田にリードされて居た石原田が頑張つて二人を抑へたことや、永見、本田の白熱戦は根上、牧野の大偉業の裏にかくれた大なる功績であらふ。

50米背泳

- 豫選 A. 1. 片山 兼吉 (明 大) ————— 0:33.4
- 2. 中村 定春 (早 大) ————— 0:33.4
 - 3. 根來 幸成 (慶 大) ————— 0:34.8
- B. 1. 勝久 重隆 (早 大) ————— 0:33.0
- 2. 井上 賛二郎 (慶 大) ————— 0:33.4
 - 3. 鈴木 重勝 (日 大) ————— 0:34.4
- C. 1. 澁川 正二 (商 大) ————— 0:32.2



(二) 間 50 米のゴール殺到、

手前より 片山・阪上・五十嵐・河石・高橋・豊田



400 米自泳勝に牧野と一騎打ちをやつた根上の力泳

- 2. 秋吉 十九夫 (日 大) ————— 0:33.8
- 3. 若山 瀧美 (早 大) ————— 0:34.4
- D.1. 河津 憲太郎 (明 大) ————— 0:33.0
- 2. 秋吉 龍二 (日 大) ————— 0:33.0
- 3. 入江 稔夫 (早 大) ————— 0:33.2

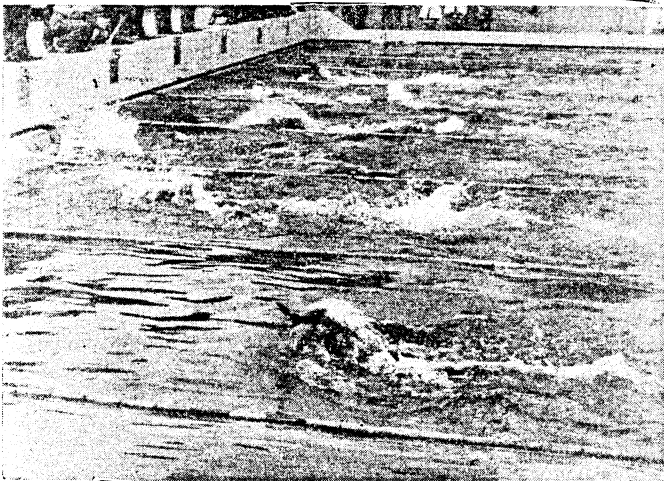
- 準決勝
- A.1. 清川 正二 (商 大) ————— 0:32.6
 - 2. 入江 稔夫 (早 大) ————— 0:33.4
 - 3. 片山 兼吉 (明 大) ————— 0:33.4
 - B.1. 河津 憲太郎 (明 大) ————— 0:32.4
 - 2. 勝久 重隆 (早 大) ————— 0:32.4
 - 3. 井上 賛二郎 (慶 大) ————— 0:33.4

- 決勝
- 1. 河津 憲太郎 (明 大) ————— 0:31.8
 - 2. 勝久 重隆 (早 大) ————— 0:32.6
 - 3. 清川 正二 (商 大) ————— 0:32.6
 - 4. 入江 稔夫 (早 大)
 - 5. 片山 兼吉 (明 大)
 - 6. 井上 賛二郎 (慶 大)

100米背泳

- 豫選
- A. 1. 入江 稔夫 (早 大) ————— 1:12.0
 - 2. 河津 憲太郎 (明 大) ————— 1:13.0
 - 3. 勝久 重隆 (早 大) ————— 1:13.2
 - 4. 鈴木 政雄 (明 大) ————— 1:15.8
 - B. 1. 清川 正二 (商 大) ————— 1:14.2
 - 2. 秋吉 十九夫 (日 大) ————— 1:14.6
 - 3. 谷口 辰三 (早 大) ————— 1:16.0
 - 4. 松下 信一 (立 大) ————— 1:16.2
 - C. 1. 秋吉 龍二 (日 大) ————— 1:14.8
 - 2. 山田 薫 (明 大) ————— 1:14.8
 - 3. 鈴木 重勝 (日 大) ————— 1:15.8
 - 4. 井上 賛二郎 (慶 大) ————— 1:15.8

- 準決勝
- A.1. 入江 稔夫 (早 大) ————— 1:13.0



100米背泳決勝ゴール 手前より 井上 秋吉 河津 清川 勝久 入江

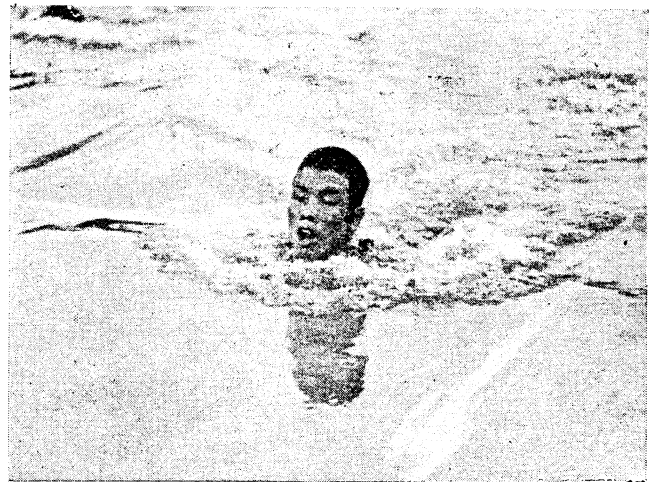
- 2. 清川 正二 (商 大) ————— 1:13.2
- 3. 井上 賛二郎 (慶 大) — 参考 — 1:14.2
- B.1. 河津 憲太郎 (明 大) ————— 1:12.8
- 2. 勝久 重隆 (早 大) ————— 1:13.2
- 3. 秋吉 十九夫 (日 大) ————— 1:14.0

- 決勝
- 1. 河津 憲太郎 (明 大) ————— 1:11.6
 - 2. 勝久 重隆 (早 大) ————— 1:12.6
 - 3. 入江 稔夫 (早 大) ————— 1:12.6
 - 4. 秋吉 十九夫 (日 大) ————— 1:13.2
 - 5. 清川 正二 (商 大)
 - 6. 井上 賛二郎 (慶 大)

元氣なき清川の惨敗は致し方ないが、反対に勝久が日本選手権以来着実にその地位を固めつつあるのは偉い。井上が兩種目共慶大の爲に貴重な一點を得たのは明大急追の最も大きな役割を演じたものであらう。奮闘よく六年早大の爲に戦つた老将入江も後進河津に覇をなさせたが、卒業後も元氣な姿を神宮プールに見せて貰ひたいものである。

100米平泳

- 豫選
- A. 1. 葉室 鐵夫 (日 大) — 大會新 — 1:16.2
 - 2. 岡田 達男 (日 大) — 大會新 — 1:16.6
 - 3. 高島 秋介 (慶 大) ————— 1:19.0
 - 4. 奥藤 修 (明 大) ————— 1:19.0
 - B.1. 小池 禮三 (慶 大) — 大會新 — 1:16.0
 - 2. 大本 昌彦 (早 大) ————— 1:19.6
 - 3. 筒井 八男治 (立 大) ————— 1:20.4
 - 4. 安永 弘 (日 大) ————— 1:20.6
 - C.1. 長久 俊三 (慶 大) — 大會新 — 1:16.8
 - 2. 伊藤 三郎 (明 大) ————— 1:18.2
 - 3. 山田 弘 (早 大) ————— 1:20.8
 - 4. 山田 拓平 (立 大) ————— 1:23.2
- 準決勝
- A.1. 葉室 鐵夫 (日 大) — 大會新 — 1:16.6
 - 2. 長久 俊三 (慶 大) — 大會新 — 1:17.6



100米平泳に葉室を抑へて 1: 3.8 の長水路世界記録を生んだ小池のゴール前

3. 大本 昌彦 (早大) ————— 1:18.6
 B.1. 小池 禮三 (慶大) —大會新— 1:15.2
 2. 岡田 達男 (日大) —大會新— 1:16.2
 3. 伊藤 三郎 (明大) —大會新— 1:17.8
決勝 1. 小池 禮三 (慶大) —長水路世界新— 1:13.8
 2. 葉室 鐵夫 (日大) —大會新— 1:16.0
 3. 長久 俊三 (慶大) —大會新— 1:16.8
 4. 岡田 達男 (日大) —参考— 1:17.4
 5. 大本 昌彦 (早大)
 6. 伊藤 三郎 (明大)

岡田以外は全部初顔である。小池は斷然積極戦法で葉室を抑へて長水路世界新記録で優勝した。彼の此の成功は後進葉室の擡頭と自己の強き意識の中に生じたものと思はれるが、此の氣持を永久に失はないで欲しいものである。慶大は平泳トリオの内高島が落選したが長久は實に頼母しい泳ぎ振りである。好き同輩小池と共に精進されん事を希望する。此の種目に早大人なく辛うじて新人大本が五等に喰ひ込んだのみ。山田・古莊・前田等の奮起すべき時であらう。

200米平泳

- 豫選 A. 1. 葉室 鐵夫 (日大) —大會新— 2:48.4
 2. 伊藤 三郎 (明大) ————— 2:55.8
 3. 長久 俊三 (慶大) ————— 2:56.0
 B.1. 小池 禮三 (慶大) —大會新— 2:45.8
 2. 岡田 達男 (日大) ————— 2:55.0
 3. 高島 秋介 (慶大) ————— 2:55.0
決勝 1. 小池 禮三 (慶大) —長水路世界新— 2:43.0
 2. 葉室 鐵夫 (日大) —大會新— 2:47.6
 3. 長久 俊三 (慶大) —大會新— 2:51.6
 4. 伊藤 三郎 (明大) —参考— 2:53.8
 5. 高島 秋介 (慶大)
 6. 岡田 達男 (日大)

葉室・小池の對戦は根上對牧野について興味をよんだ

が、小池始めからリードしてよせつけず、前半を 1:17.4 で泳いで亦々長水路世界新記録を出してしまつた。

葉室も決して弱くなかつた。此の二人が共に良き敵となつて互に精進する時伯林に於ける平泳日本の三回連覇が完成されるのである。最も活躍すべき奥藤、筒井が豫選で落ちたのは岡田の不振と共に残念である。長久は此所でも三等に入り、高島又五等となつて慶應は一舉13點を獲得した。

200米リレー決勝

1. 早大 (阪上、志村、五十嵐、高橋) — 1:46.6
2. 日大 (遊佐、安岡、杉本、豊田) — 1:48.2
2. 明大 (片山、大横田、石原田、河津) — 1:49.0
3. 慶大 (小森、宮崎、森、河石) — 1:49.4
4. 立大 (鶴岡、由本、篠塚、根上)
5. 商大 (高橋、栖原、青木、清川)

300米リレー決勝

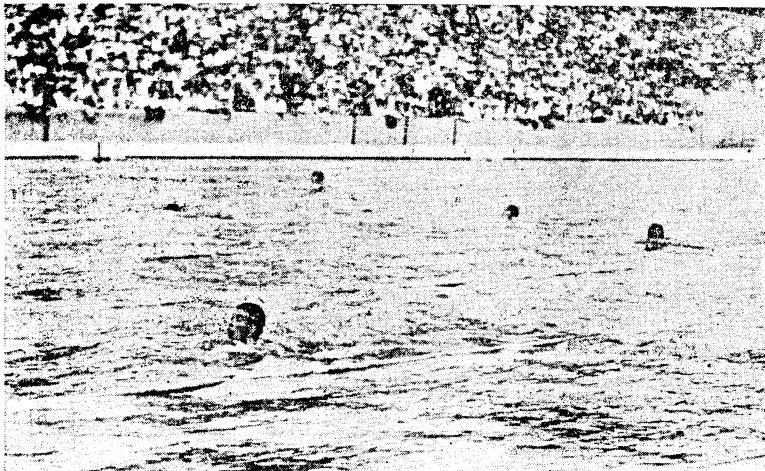
1. 早大 (新聞、田中、片岡、牧野) —大會新— 9:08.3
2. 日大 (遊佐、豊田、森原、杉本) — 9:17.2
3. 明大 (片山、大横田、武村、石原田) — 9:25.8
4. 立大 (鶴岡、田野、本田、根上) — 9:27.6
5. 慶大 (小森、前川、河石、田端)
6. 商大 (栖原、水谷、青木、清川)

二部戦績 (決勝記録)

50米自由形

1. 井上 茂 (國學) ————— 0:27.4
2. 大西 正助 (帝大) ————— 0:27.4
3. 加瀬 達男 (法大) ————— 0:27.8
4. 小井手 義雄 (名高商)
5. 間野 忠之 (法大)
6. 服部 京造 (横高工)

豫選の好記録 服部 0:27.6 井上 0:27.6



200米平泳では小池斷然他の追従を許さず長水路世界記録を生んでゴールに迫る

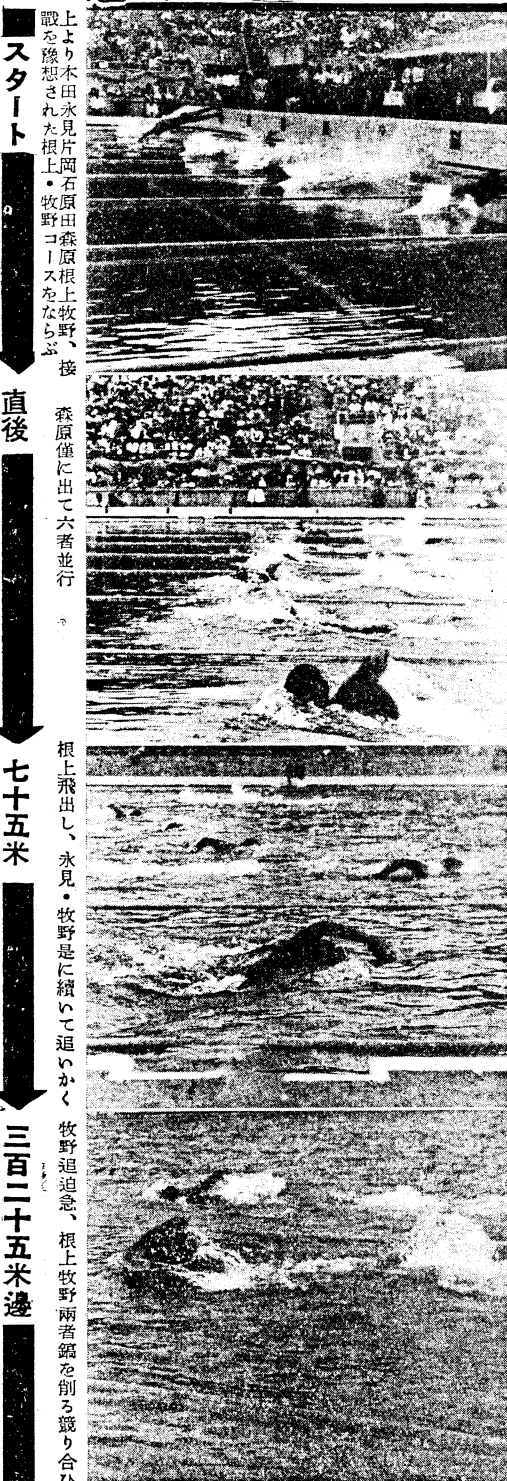


懸命に小池を追ふ葉室

牧野正藏(早大)10:01.2

根上 博(立大)10:08.4

カメラに依る
二つの世界新記録を
生んだ八百米の経過



スタート

直後

七十五米

三百二十五米邊

上より木田水見片岡石原田森根上牧野、
戦る豫想された根上・牧野コースをならぶ

接 森原僅に出て六者並行

根上飛出し、水見・牧野是に續いて追いかく

牧野追迫急、根上牧野兩者鎧を削る競り合ひ

観衆總立つ

遂いに同時ターン

牧野2米先んづ續いて根上ターン

四百五十米

六百五十米

100米自由形

1. 井上 茂(國 學)—————1:01.8
 2. 細谷 定一(中 大)—————1:03.0
 3. 富樫 誠助(法 大)—————1:03.6
 4. 藤田 貞男(法 大)—————1:03.8
 5. 服部 京造(横高工) 6. 加瀬 達雄(法 大)
- 豫選の好記録 井上 1:01.0 細谷 1:02.0 富樫 1:03.0
服部 1:03.2 加瀬 1:03.8

200米自由形

1. 富樫 誠助(法 大)—————2:24.8
2. 須崎 秀夫(横商專)—————2:26.8
3. 藤原 豊(帝 大)—————2:28.0
4. 小出 靖彦(帝 大)—————2:33.0
5. 松川 西吉(東 齒) 6. 龜井 八郎(國 學)

400米自由形

1. 市村 敬吾(法 大)—————5:07.0
2. 須崎 秀夫(横商專)—————5:15.4
3. 寺崎 一夫(關東學)—————5:20.2
4. 河合 辰雄(拓 大)—————5:24.0
5. 尾山 卓造(名高商) 6. 小出 靖彦(帝 大)

800米自由形

1. 市村 敬吾(法 大)—————10:38.4
 2. 寺崎 一夫(關東學)—————11:11.6
 3. 河合 辰雄(拓 大)—————11:12.6
 4. 澁谷 春雄(法 大)—————11:47.2
 5. 尾山 卓造(名高商) 6. 長倉 吾郎(中 大)
- 市村のラップタイム 1:10.0 2:29.4 3:51.2 5:12.8
6:34.6 7:57.2 9:19.6

90米背泳

1. 大西 正助 (帝 大) ————— 0:33.6
2. 大島 正夫 (横商専) ————— 0:33.8
3. 井上 清 (名高商) ————— 0:33.8
4. 坏 信義 (横高工) 5. 門田 梅治 (法 大)
6. 杉浦 光信 (東 齒)

100米背泳

1. 井上 清 (名高商) ————— 1:15.6
2. 細谷 定一 (中 央) ————— 1:16.0
3. 坏 信義 (横高工) ————— 1:16.8
4. 大島 正夫 (横商専) ————— 1:19.0
5. 門田 梅治 (法 大) 6. 杉浦 光信 (東 齒)

100米平泳

1. 柳澤 榮三郎 (法 大) ————— 1:21.0
2. 稻垣 武一 (中 央) ————— 1:25.2
3. 岩田 孝七 (名高商) ————— 1:25.8
4. 渡井 八郎 (法 大) ————— 1:26.4
5. 井上 博司 (横 専) 6. 星野 保夫 (帝 大)

200米平泳

1. 柳澤 榮三郎 (法 大) ————— 2:58.0
2. 稻垣 武一 (中 大) ————— 3:06.8
3. 岩田 孝七 (名高商) ————— 3:11.0
4. 渡井 八郎 (法 大) ————— 3:13.0
5. 井上 博司 (横 専) 6. 光田 健一 (拓 大)

200米リレー

1. 帝 大 (小出、阪本、大西、藤原) — 1:52.4

2. 法 大 (加瀬、藤田、内野、富樫) — 1:52.8
3. 横高工 (津田、笹沼、坏、服部) — 1:55.2
4. 名高商 (永廣、尾崎、澤田、小井平) — 1:56.6
5. 國 大 (龜井、野田、岡田、井上)
6. 中 大 (宮部、原、栗田、細谷)

800米リレー

1. 法 大 (澁谷、藤田、市村、富樫) — 9:54.8
2. 名高商 (井上、尾崎、諫早、尾山) — 10:17.6
3. 帝 大 (小出、大西、橋村、藤原) — 10:20.6
4. 國 大 (龜井、宮崎、岡田、井上)
5. 中 央 (栗田、廣瀬、長倉、細谷)
6. 横高工 (長野、津田、坏、服部)

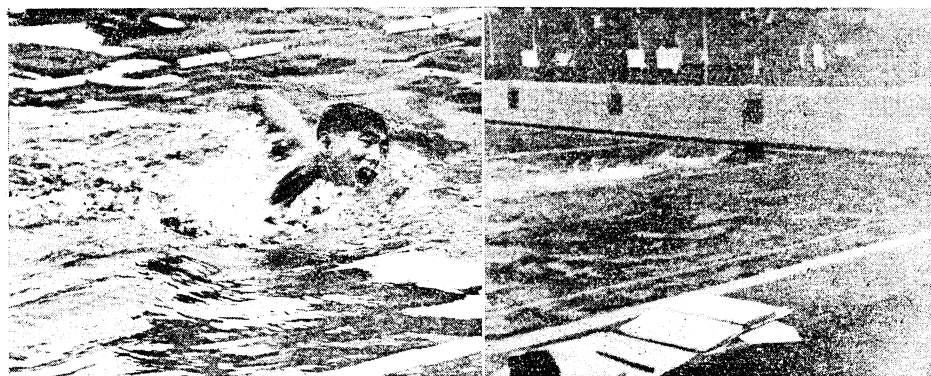
各 校 得 点

一 部

早 大 — 95	日 大 — 50
明 大 — 36	慶 大 — 35
立 大 — 18	商 大 — 8
文理大 — 0	商 船 — 0

二 部

法 政 — 74	名高商 — 34
帝 大 — 32	中 大 — 24
國學院 — 20	横商専 — 18
横高工 — 15	關東學院 — 9
拓 大 — 8	横 専 — 4
東京齒 — 4	



- 2コース 本田惣一郎(立) 5
- 3コース 永見達明(早) 4
- 5コース 片岡寅次郎(早) 6
- 6コース 石原田 愿(明) 3
- 7コース 森原幸彦(日) 7
- 8コース 根上 博(立) 2
- 9コース 牧野正藏(早) 1

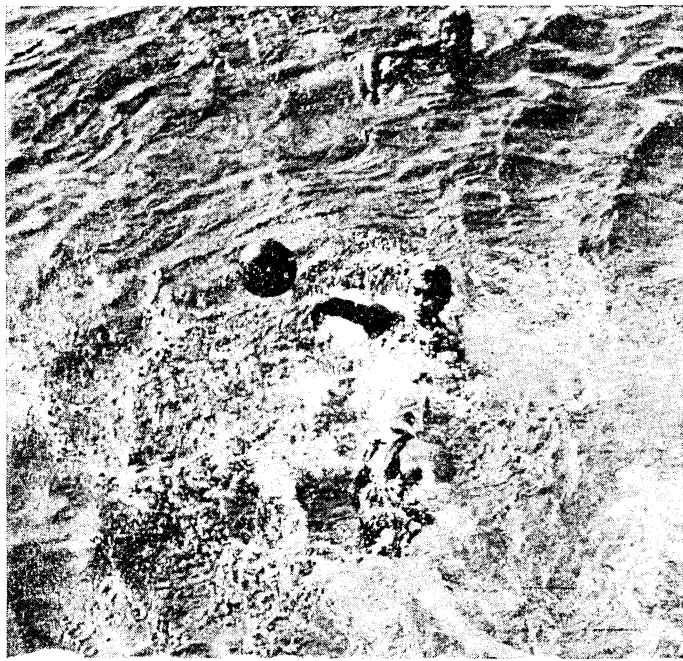
牧野限りなき底力を見せて物凄いラスト・スパート

牧野ゴールイン、續いて根上ゴールその差約14米 下方に見えるは飯田光太郎氏の世界記録閲覧

ラスト

ゴール

●1934・9・16・全国学生大会第三日●



水球評並に駄足

木村 水牛

今年の秋にスケジュールされた第九回全国学生水球リーグ戦は、九月廿二日、神宮外苑プールで、末弘会長の「水球がオリンピックに行けなくなると云つた風説は確實なものでない。尠くも水上の競泳が遠征する以上、是非水球も遣り度いと努力するつもりだ。この意味で諸君も落膽せず、うんと努力して欲しい」と云ふ力強い挨拶があつた後開幕され、十月の二日まで新に中央大學を加へた九チームが、神宮プールに水沫を飛ばせて争覇したのであるが、結局早大が例に依つて連勝して榮冠を握り、二位慶應、三位帝大、四位立教、五位日大、六位明大、七位は拓・法・中三校が互に一勝の成績で顔を揃へた。

何しろ三十六試合と云ふ多くの試合の戦評と云ふと、第一勉強も足りないし、又その紙面をも持たない。

その上私自ら、各エキスパートの胸を衝く名文句がある譯がなく、未來に對する好着眠のありようがないが、リーグ戦の評を書けと言ふ命に接して、勇躍、數説をもよほす事になつたのである。讀了を願へれば多幸この上もなき次第。

早大・慶應

スピードの主力を動員した此チームは、インターカレッジが終つた直後だから練習が出来なかつた。

例に依つて帝大迄の七校を試合らしい試合をせず軽く退け、當面の敵慶應と顔を合す事になつたのだが、今の六大學野球戦の様になり力が揃つた相手が出て來ると、一試合の度毎に、相手の研究をして、この

道あの道と大きな進歩の道を辿るだらうが、あんな樂なゲームを續けなければならない様では、大した進歩の望まれないのも當然だと云はねばならない。

やはり拔群の阪上君の獨舞臺で、チームの攻防の半ばを一身に背負つてゐた。

對慶應戦には、前半FWのバッキングアツプ遅く、慶應のスタート常に一步を先んじて、屢々ゴール近くまで攻められ、一對一の同點で前半を終ると云ふ早大方に分の悪るい接戦を演じてしまつた。

これは他のチームが、一人位ノーマークとなつても、強力バックが、何とか方法をつけてくれると云ふ感じをFWに抱かせる程、弱かつたのであつた。

慶應は後半疲れて、早大のスピードに對抗出來ず一點を報いたものゝ尙四點を加へられて負けだが、澤海君無く、新メンバーを多數に入れたにかゝはらず善戦したと云へる。

早大のスピードを、慶應と同格としたならば、慶應は大體に於て、常に先手を打つて遂に慶應に凱歌が擧つたらう。

常にスタートに機敏なのは、猛練習のあとを物語つてゐる。慶應がどの位練習をしたか知らないが、チームとして早大の倍以上はしてゐたらう。スピード對技術の同題は後に今一度考へて見る。

帝大・立教

三位を争つて帝大が、勝つたが、帝大はスピードに傑出した選手を持たないだけ、ボロに集中出來たと見えて、春の順位をひつくり返すことが出來たが、

バックの野知から投げられた球を、強引な、大西、藤原、小出の三者が相手を泳ぎ負かして再三得點に至らしめたのであるが、野知君の好守好防が一段と光つてゐた。

立教は遠藤を失つて、HB藤岡の好戦はあつたが、根上、本田、鶴岡のスピード選手をもつてチームを組織せねばならない苦境に立ち、順位も致し方ないところだつた。

日大・明大

前四者を除いたチームはまだボロ・チームらしいまとまりをもつてゐない。試合中ノーマークがあつても、観衆の一人として平気で見て居られる程だから、ちよつと差がある。日・明は、早大に次ぐスピード選手の豊富なチームで、ともにパスよりもドリブルを主とした戦法をしてゐた。

兩者互格で延長戦の後、やゝ疲れた明大が一點を奪取され六位にされた。

日大はセンターに短距離の王者遊佐をもつてゐるから、センターボールは、何のチームからもとれる筈である。味方の常に取れるセンターボールから、何等かのフォーメーションによつて、ゴールを續ける法はなかつたらうか？ やはり水球は泳ぎだけでは駄目なんだと思はせる。

商大

スピードが足りないから、ハンドリングで對抗せねばならないチームだが、明・日のスピードに對抗出来ない程、水球チームとしての訓練が足りなかつたと云へる。以前はもつとチームとしての纏りがあつたと思ふが

拓大・法大・中大

リーグ前半は、大きなスコアで負け通さねばならないのに、戦ひ盡した努力を賞讃する。愈々最後に近付いて、この力の同等な新チームが顔が合ひ、互に一勝を得て仲よく七位になつたのは目出度かつた。戦後「今日始めて水球の面白さが判つた」と云つてゐた選手があつたが、最初から負け續けてゐるから、さもあらんと云ふところだらう？

進歩は？

このリーグ戦のあとをふり返つて、何が残つたか？ 學校の数が九つと云ふ數になつた。一試合後直に行はれた審判員の相互の批判で、審判員の質が向上した。その他選手の技術も進歩した。等々多くの進歩

を數へられよう。

殊に新進チームの力の向上は大した足跡を残したらう。

が國際的な見地から、見ると、代表的なチーム早慶兩校のチームがどれだけ進歩したかと云ふ點では、春と大した變りがなく、昨年とも大した變りがなく、結局劃期的な進歩を見る事が出来なかつたと云はねばならない。

オリンピック対策

オリンピックに準備する期間はあと明年を餘すのみだ。オリンピックに闘ふ爲には、水球として非常に多くの問題が残されてゐる。

オリンピック対策の數多くが考へられねばならない。次に大まかな處を拾つてみる。

スピードとの分離

スピードは水球に最も必要な要素である。だがスピード競技と水球は兩立しない。今水球界では競泳の片手間に水球をやらうと云ふ氣分が溢れてゐる。これでは絶體に強くなる道理がない。

水球に立てこもる、スピードスイマーを總動員して、水球のチームの一齒車として鍛へねば駄目だ。それをせずしてオリンピックを試みる事は無茶だ。

戦術を研究したいものだ

時任君は戦術についてその蘊奥を傾けた。

よくシュートし、よくパスし、よくタックルする事は一つの個人を素質づける要因だが、歐米チームに對抗するには多くのフォーメーションを實踐しなくては駄目だ。

これは判り切つた事だから今更と云つて笑ふ人があるかも知れぬ。

だが實際は、練習の時にフォーメーションらしいものを用ひてゐるチームがどれだけあるだらうかと云ふと、心細い。

勿論チームがスピードと分離をしてゐない事がチームとしての練習の期間をほんのおざなりなものとしてしまふ事も原因するだらうが、フォーメーションらしいフォーメーションの二、三が試合に看取されても良い筈だ。

チームとしての長期合宿、とフォーメーションの實踐は、オリンピック対策として、あちらこちらから、もつと眞剣に叫ばれなくてはならない筈だ。

(以上)



全國學生飛込競技

原 秀 夫

學生飛込競技大會も回を重ねて今年はその第八回大會が去る九月二十三日神宮プールに於て行はれた。

幸ひ數日來の雨も晴れて、溫度も相當に昇りコンディションは可成り良好であつたが、晝頃より吹き出した風が次第に強くなつて高飛込の選手は相當悩まされた様であつた。

競技會としては、日本選手權大會に種々の新しい試みが行はれたのに反して、別に例年と變りなく至極無事平穩、或は見方によつてはむしろ何等の進歩もなかつた様であつたが、從來飛込の選手、チームの間に於て比較的等閑に付されてゐた、團體的練習の重要さ、更に將來に向つての練習方法、等の點に於て相當有意義な宿題を興へて呉れた様に考へる。此等の事は一見、万人周知の事の様であり今更此處に改めて特筆すべき事柄でないかも知れぬが、此の大會が我々に、矢張り飛込もその技術の向上に團體的練習の絶対に必要なる事を痛感させて呉れた様な氣がするからである。

と云ふのは、今迄永い間、水に身體を打たない爲めの練習、眞直に入る爲めの飛込、極端に云へば選手自身の楽しむ飛込の時代をすぎて、飛込はあくまで人に見て貰ふ爲めの飛込である事が意識され、従つて如何にすれば美しく、更に見る人に迫つて行く様な飛込になるか、と考へる様になつて來てゐる、現在明大には明大の特長、日大には日大獨特の美點、慶應には所謂慶應式の各々可成りの美點があるにも拘らず、他の缺點のあまり多い爲に折角のその特長

が表はれて來ない事が相當にある様に思へるからである。

簡単に云へば、聊か無理な相談かも知れないが、生江(兄)の10米走前飛に柴原の入水を加へた場合を想像して見れば相當美事な飛込が現はれて來はしないだろうか、オリンピックも近きにある時、今迄各人が種々經驗し考へて來たものを共に出し合つて一方にあつて他方に缺けてゐる點を常に矯正して一丸となつて團體的練習をやつたならば、道は案外近きにあるのではなからうか。

さて當日行はれた競技順序に従つて各選手の奮闘の跡を検討して見ると、その詳しい記録は別表の通りであるが、

高飛込(前飛のみ)

技術的には別に特筆すべきものはなかつたが飛込選手の間に兎角水物と云はれてゐる此の種目は遺憾なくその水物振りを發揮して競技的には極めて興味深かつた、連勝の生江が固くなりすぎて珍らしく不調で、石川は氣分の樂な爲か極めて好調で確實に七點平均を出して見事優勝し、老練な岩切は此又あせらず10米になつてから着々得點して二位を得た、あまり目立たなかつたがこの岩切の二位獲得は石川の優勝と共に、生江の不調を繕つて餘りあるもので、將に揺がうとした明大の王座を殆んど再び確定的なものにした立派なものであつた、三位の林、六位の門倉は共に入水に難があり、伊藤、片岡等の若い人々には將來を期待する、さるにても飛込第二で十位

に落ちた生江が最後まで試合をすてずに四位を得た
ファイティングスピリットには敬服した。

飛板飛込

全日本の覇者柴原の優勝は先づ異存なからう、規定飛は大體完璧に近き出来を示したが選擇飛に入つてより聊か練習不足の様に見えたのは身體の調子の悪かつた爲め致し方あるまい、然し、走前逆宙返り一回半は昨年のそれに更に確實さ、と餘裕とを加へた見事なものでオリンピックに於ても聊さかの遜色もあるまいと思ふ、後二回半、一回捻り一回半等は來年を期待するのが順當かも知れぬが殊に後者の方には、踏切る時の前傾が表はれて飛込の線外に外れてる様な氣がした。

別表の示す通り二位の生江(兄)と三位の石川とは規定飛第四より最後迄接戦を續けて終に老巧の生江の勝となつたが、むしろ敗れた石川の健闘を賞したい、石川は永年不運と弱氣の爲め連敗して居たが、絶えざる努力を續けて遂に第一戦に乗り出して來た、新人の學ぶべき點であると共に、より一層の奮闘を期待する、未だ前逆宙返り一回半、後一回半等、未完成のものも多いが、此等不得意なものに主力を注いで數多く練習したならばと思はれる、四位の永井は最初不調であつたが、次第に練習の結果が現はれて石川に次いだ、練習熱心の點は敬服するが、もう少し規則的な練習をしては如何、片岡、生江(弟)は練習不足の一言に盡きる、試合前日になつて未だ全種目が揃つて居ない様な状態では絶対に好成績は望めない、殊に生江が規定飛、選擇飛に零點を二つも出して居るは、絶対に肯き難く今後の反省を望んで

敢て苦言を呈する。

高飛込

期待された柴原の高飛込は、時々飛板の片鱗を見せては呉れたが、偉大なる未成品の感深く、迫力に乏しかつた、選擇飛に少し無理な種目を採りすぎた様に思ふが、此又來年を期するのが或は順當か。

岩切の二位、林の三位は順當ではあるが共に物足りなく、もつと玉碎的の氣持を期待してゐた、殊に林の規定飛第四は一流選手の競技振りとして絶対に賛成し難く反省を期する、伊藤は全く元氣なき慶軍の中にあつてよく奮闘して居たが矢張り経験に乏しく僅少の差で四位となつた善闘と云ふべく、極めて素直な素質と練習熱心の點より今後への期待も相當大きい。

以上の結果、優秀選手を多數擁する明大が四三點の大量得點を擧げて二年連続優勝し、當代隨一の柴原を有する日大が二位。

競技一週間前に主將杉原を負傷により失つた慶應が第三位、以下早大、關東學院の順となつた。

第一回の優勝校立教に其後人なく、玉川時代の數年間、慶應と並んで極めて多士濟々であつた帝大に一人の選手も居ない事等は、全く悲しむべき現象であり、新しい出場校の多數増加することもさることながら、立教帝大の先輩諸氏に來年度大會には是非とも選手を出して戴く様御願ひし呉れ呉れも今の學生飛込の連中がガツチリと肩を組んで學生飛込の爲め、更に日本の飛込界の爲に奮闘される事を望んで此稿を終る。

HIGH PLANE					
POSITION AFTER FIRST DIVE	DIVING FLIGHTS.				FINAL PLACE POSITION
CONTESTANTS	1	2	3	4	CONTESTANTS
石川(明大)	7.2	14.90	22.38	30.78	1 石川(明大)
伊藤(慶大)	6.9	13.40	20.08	28.48	2 岩切(明大)
林(明大)	6.8	12.98	20.02	28.42	3 林(明大)
首藤(日大)	6.4	12.56	19.78	27.54	4 生江(明大)
岩切(日大)	6.0	12.00	19.56	27.46	5 伊藤(慶大)
山田(早大)	5.6	11.20	18.44	26.06	6 門倉(慶大)
生江(明大)	5.4	11.98	18.38	24.92	7 鴨志田(慶大)
鴨志田(慶大)	4.8	11.78	18.06	22.86	8 首藤(日大)
大塚(早大)	4.0	10.96	17.94	21.68	9 片岡(慶大)
		10.02	17.48	20.36	10 山田(早大)
		7.74	14.12	20.12	11 大塚(早大)

SPRING BOARD											
POSITION AFTER FIRST DIVE	DIVING FLIGHTS										FINAL PLACE POSITION
CONTESTANTS	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	CONTESTANTS
柴原(日大)	13.68	27.28	42.48	54.00	68.40	81.42	92.94	109.04	127.48	135.82	1 柴原(日大)
生江(明大)	12.24	23.12	36.80	44.90	55.04	68.18	82.00	93.20	101.00	111.34	2 生江(明大)
小倉(關東)	10.80	22.10	35.40	43.52	53.90	68.00	79.52	87.00	98.04	106.66	3 石川(明大)
首藤(日大)	9.72	20.40	33.70	40.84	52.36	64.60	70.48	79.94	90.34	100.22	4 永井(明大)
山田(早大)	9.00	20.32	29.48	39.04	48.04	58.54	68.94	76.20	88.60	98.72	5 片岡(慶大)
生江省(慶大)	7.20	18.20	27.18	35.12	44.12	53.12	64.52	75.08	87.08	88.40	6 首藤(日大)
永井(明大)	6.48	18.66	25.68	31.80	41.52	53.04	62.24	68.24	77.40	77.80	7 生江省(慶大)
杉野(明大)	6.12	17.20	24.12	30.38	39.74	48.28	55.00	65.90	72.38	74.14	8 小倉(關東)
大塚(早大)	4.32	12.92	17.90	26.32	35.68	46.46	50.86	58.56	67.50	73.96	9 山田(早大)
		8.40	17.48	24.30	32.94	40.80	50.58	57.12	65.12	71.20	10 杉野(明大)
		7.20	14.80	21.00	29.64	40.50	48.48	54.18	61.58	67.94	11 大塚(早大)

HIGH DIVE									
POSITION AFTER FIRST DIVE	DIVING FLIGHTS.								FINAL PLACE POSITION
CONTESTANTS	1	2	3	4	5	6	7	8	CONTESTANTS
柴原(日大)	748	1588	2956	4476	5884	6896	7862	8982	1 柴原(日大)
岩切(明大)	704	1544	2804	3512	4632	5772	7254	8090	2 岩切(明大)
林(明大)	660	1382	2456	3254	4274	4980	5858	7074	3 林(明大)
門倉(慶大)	638	1386	2372	2818	3766	4406	5820	6896	4 伊藤(慶大)
山口(明大)	418	1376	2210	2774	3650	4882	5604	6334	5 山口(明大)
		898	2014	2604	3372	4452	5588	6234	6 門倉(慶大)

各 大 學 練 習 法 檢 討

日本水上競技聯盟編輯委員

昭和九年度の我が男子競泳界は餘り芳しい成績ではなかつた。たゞ牧野、根上兩君によつて800米、1000米の二種目に世界最高記録を更新し水泳ニッポンの面目をやつと保ち得たのみであつた。

本シーズンのレースを大觀する時、學生大會の牧野、小池兩君の泳ぎ振りは堅實なペースと云ひ、立派なフォームと云ひ中分ないものであつた。根上(立教)、葉室(日大)兩君等は選手權大會に根上君が1000米に世界記録を生み、葉室君は200米平泳に小池君にタッチの差で敗れたとは言へ2分45秒臺で將來を期待されるに到つたが未だ未だ牧野、小池君等の堂々たる少しの危けもない泳ぎに比して開きがある様だ。

されど今春極東大會豫選會に落選して一向に水泳界から今日あるを豫想されなかつた根上君がどうして一シーズンの間にこんな躍進をしたのだろうか、牧野・小池君等が天才的選手であるとしても根上君は決して天才的選手だとは言えないであらう。此の普通の選手が何うして天才的選手のみが有つてゐる泳法をこんなに簡単に修得し得たのだろうか、又世界の最高水準線は未だ幼稚であるのだろうか、根上君の活躍は一般にこんな疑問を懐かせるに到つた。

従來世界記録を狙ひ得る選手と云へば牧野、北村、宮崎、小池君等いづれも天才的素質を中等學校時代から備へてをり、ビーチング、或はストローク、練習法等にも他の選手には一寸と見られない特徴を有つてゐるものばかりだつた。

併し乍ら是等選手のみ有つてゐる腕、脚のコンビネーションの妙、力強いビーチング等も唯練習法如何によつて天才の域を窺ひ得る事が至難でないと言ふ事が根上君によつて立證されたと云つてもよい。

水上競技の泳法理論その他の部門に就いては随分研究し盡されて居るが、練習法に就いては未だ未だ一般に研究すべき餘地が十分にのこされてゐる。徒らに泳ぐことのみを心懸けるよりも如何にすれば技術を修得し、ペースを縮め、大會に最上のコンディションを導き得るか、その合法的練習法に就いてもつと考へて欲しい。

次に主なる東都各大學の代表者或は個人に就いて

練習法を尋ねて見た以下はそれである。

早大 水の王者早大、いつも元氣なファイトで學生水上界を壓倒してゐる、あの底力のある實力はどうして生れるのだろうか、選手の質量に優れてゐるのが原因してゐるが、又是等選手を元氣に大會へ導いて行く方法も亦一風變つてゐる。

シーズンオフの冬季には部員揃つてラグビーに遊ぶことに夢中だ、小さい體軀の牧野君など名T.B.として仲々の活躍だ、しかしこれもエンジョイする程度で度を越してはゐない。

愈々水溫む四月下旬からはシーズンの本格的練習に入る。初め頃は長短兩選手の區別なく1500米、2000米位まで長い距離を泳いで耐久力體力を先づ養い、練習の終りに毎日ビーチング(ボールを持つて200米、或はオーバーフローを握つて5分、10分)によりフォームを作ることを日課にしてゐる、ダツシュの様な技術的練習には餘り注意してゐない。

こんな練習を二週間も續ければ五月の初めから週に二回タイムデーを定めて、この日には誰れも彼れも一様に強制的にレコードを計る。各選手共このレコード日には仲々熱心に力泳する、斯して各自レコード日に對する自分のペースを平日に練習をしてゐる、またレコード表に現はれる自分の進歩の跡を見るのも愉快の一つと成てゐる、平素のこんなペースの練習が彼の自信に満ちた試合振りとなつて成のだらう。

インターカレッジ大會前の合宿練習が始まると毎日ウオームアップを200・400米多い時になると600米もフラフラ泳いでからレースコースのタイムを計る一日二回、後は自由に手・足別々の練習をしフォームの矯正等はお互に注意し合つて、選手の過勞はタイム後の練習の量を調節してゐる。牧野君などは一日3000米以上も泳いでゐる、今年のインターカレッジ合宿には合宿當初、選手の調子が非常に不揃で且つ悪かつたので一つのスケジュールを作つた即ち合宿開始二日間極力選手に泳がせて、うんと勞らせ翌日一日休養の意味で樂に泳がせた所やつと選手は調子が出て來た、その後はその調子の山を試合にもつて行く様に朝晝二回のレースコースを相當ガツクリやらせた。此の練習法は始めは各選手共相當苦し

かつた様であるが續けて行つて慣れれば餘裕のある日課であつた、此の練習法に慣れてゐる選手ならばオリンピック合宿練習などにも何等苦痛なく直ぐに従事する事が出来るであらう、タイムは一週間前まで計らなくなるが試合まで調子を下すもの、そのまゝ頑張り通して試合の前日一寸調子を下すものなどまちまちで、800米10分04秒臺を練習中出してるた永見君など一週間前から急に調子を下し過ぎたために失敗したそうだ、またビーチングの練習も仲々厳しくやつてゐる。

早大のこの毎日二回レースコースをひいてペースを完全に自己のものとし、またこの練習によつて記録の向上を計り各選手に希望を持たせることによつてチームの統制を計るのも良い方法だ。蓋して早大の練習法は非常に大ざつぱではあるが兎に角一貫した統制練習法で相當なハード・トレーニングを斷行してゐると言へる、量と質に優れて居る早大だからこそ此れで行けると思はれるが、もう一步突き進んだ綿密な科學的な練習法が必要ではあるまいか。

日大 短距離王遊佐君の練習法はこうだ、シーズン初めはスプリングボードで陸上準備運動としてピョンピョン跳ね上る事10分位、脚の弾力を付る事に努めてゐる。400米ロング、50米ダッシュ、200米或は400米のスプリントを二回位、ビーチング200米の順で一回の練習を切り上げてゐる。

大會前の合宿では100米軽く、400米スプリント、200米或は400米スプリントを午前午後交替（自分の種目）、長距離選手と共に1500米或は1000米を泳ぐ、200、400米ビーチング、後は水球等で遊んでゐる。タイムは午後一回、試合五日位前からタイムを取らないが大會前日も調子を下さずそのまゝ強引に持つて行く。

新進葉室君はシーズンに入ると先づ脚だけで400米、脚の調子がついた所で1000米或は800米をタイムを取る様な心算で最初から飛び出してゐる。次に300米或は150米位のレコード、25米ダッシュ14秒8—15秒4位のスピードで8回位も練習してゐる。

合宿になると200米或は400米ロング、レースコース、400米を6分2.3秒の調子、後は自由にやつてゐる。

遊佐君の練習は短距離選手として申分ないスケジュールだ、葉室君も今少しの努力で小池君の域に達し得やう。

立教 選手の少ない立教はチームの統制に苦心してゐる。従つてチームとしてはよく纏

まり獨りの異端者もない。シーズン外はラグビー等の一才危険性のある競技は行はないでバスケット體操等を毎日軽く三十分位行つて少數の選手を大切にしてゐる。

シーズンに入つてからのスケジュールは長短兩選手の一回の泳ぐ量は各選手とも同様に、1500米或は2000米位の距離を適當に按配してスプリント、ダッシュ、ビーチング、腕の練習等を行つてゐる。また練習始めのウォームアップ等は全然行はない。その代り陸上で十分準備運動を行つてからすぐスプリントに入つてゐる。全體の練習量が殆んど同様にチームとしての向上を計つてゐるから入學當初は100米背泳1分35秒位の選手も一シーズンで19秒まで漕ぎつけてゐる。練習にウォームアップを行はずに最初からスプリントに入り最後の練習が終れば自由練習を行はず、すぐプールから退場させキビキビした練習を行つてゐるチームとして少しもだれることなく、可成りの成功を収めてゐる様だ。

明治 且つて中等界の豪雄を一舉に揃へた明大チームは昨今スラムブで振はないのはどうした譯かチームの統制練習への指針が確立してゐない爲ではないのだらうか。古い歴史を有する明大チームにして、しかも理想的室内プールを有してゐる明大チーム、練習法さへもつと研究すれば確かにもつと鞏固は水泳陣を建設し得るだらう。河津君の練習方法は二・三月頃にバスケット、ランニング、室内體操で充分體力を養ふ。五・六月頃は専らフォームを作る準備期間とし、シーズンに入れば午前は軽く午後は本練習を行ふ。200米或は400米のウォームアップ、600米或は800米を軽いスプリント、400米強く、25米或は50米ダッシュは色々の調子を試みて三四回、タイムは五日に一度位でシーズンに入つてからはビーチング手足別々の練習は殆んど行はない。

練習中1分08秒臺を出した同選手が大會に記録が出なかつたのもこのビーチングの練習が缺け、唯元氣丈だけで持つて行かうとしたため、元氣の消衰と共に腕の軽いキャッチが出来なく、伸び伸びした泳ぎが得られず、あんな結果となつたのだらう。同選手によつて如何に簡単なビーチング等の基礎練習が必要であるかを感じしめられることだらう。

現在明大チームの主力をなしてゐる選手達は數年前一時に揃つて入學した人達であつて入學當時から同じ位の力量の選手が練習に於ても各個人個人競り合つて、一人が2000泳げば他の人は3000泳ぐと言つた様な個人本位の練習法を行つて日米對抗、羅府オ

オリンピックに多数の選手を出す事が出来た。明大選手達は個人本位の練習法にのみ頼つて、チームとしての統制練習を忘却してゐたかの様であつた。個人本位の練習によつて多数の選手をオリンピックに送る事は出来ても、オリンピックのチームとしての統制練習に完全に服し得、オリンピック競技に出場し得る選手は少数であつた事等はその邊の消息を語るものであらう、延いては明大の昨今のチームとしてのスランプを來したのもそこに原因する事であらう。今もつて選手達は個人本位の練習のみに没頭して統制練習をいさぎよしとしない傾向がある。今年のインターカレッジには統制練習を行ふと聞いてゐたのであるがそれも或る程度の實行しか行はれなかつた様である。

應 慶

小池君は練習始めにはデンマーク體操、軽く體を浮す程度でフォームに注意しながら1500位の永い距離を泳ぎ調子が出るまでに一月か一ヶ月半かゝる正規の練習に入つてからはウォーミング・アップ400米位、ミツテル400或は600米泳ぎ、その日によつてケリ足だけの練習(手は浮だけに用ひ)400、600、これは200米を3分、400米を6分30秒か40秒位いで泳ぐ、足のあとで手ばかりで100米、その後でロングを600或は800やる、一週に一度位1500位のロングを引く事がある。スタートダッシ(25米)三回14秒6—15秒4位いで行ふ、一日の練習中に必ず一度はフルスピードで飛出して泳いで見る100米1分16秒、200米2:45或は49、300米4:19、400米6:08位、午前の練習は従とし午後の練習を主としてゐる。試合十日位前に二回だけレースコースを引く一日の練習時間は正味二時間。泳ぎさへすればタイムの上つたオリンピックの時分と異り此の

頃は矢たら泳ぐ事をやめて試合をねらひ打ちする方針を取る事にした、今年は選手権が調子の下り坂に當つたのでインターカレッジ練習には無暗に泳がぬ方針を取つて効果を擧げる事が出来た。來年もその方針でオリンピックに備へるとの事である。

以上の練習法を検討して見る時、合法的な練習とはどんなものか原則として

一、一ヶ年を通じて生活を規則正しくすること。

一、練習にはスケジュールを定め、盲滅法に泳がず一日の練習に必ず餘裕を残して置くこと、規則正しき練習は選手を過勞させる事は絶対にない。

一、基礎練習に力を注ぎ、自分のフォームを作り上げること、基礎さへ確かしてゐれば少しのスタンプでもタイムが落ちることがない、特に腕、脚を部分的に強くしてから是等を綜合して完璧なフォームとする。

一、従つて眞の泳ぎを會得するためには短距離選手と雖も長い距離を泳ぐ練習を忘れては不可。

一、少なくとも本シーズンに入れば一週に一度はレースコースを引きベースの練習を行ふこと。對抗競技等で相手が弱いからとてフラフラ泳いでゐるが如き事は實に嫌むべきことだ。

以上は聞き得た練習法のほんの一部分に過ぎないが参考として諸君の最善の練習法を編み出して貰ひ度い。

各選手は自己の向上の爲に素より、指導の位置に立つ當事者も、ただに記録の收穫の多きを歡び少きを憂へるばかりでなく更に竿頭一步を進めていかにして記録を生ませるかその練習法を積極的に研究される事は日本水泳界に最も必要な急務であると思ふ

● 消 息 欄 ●

岸記念運動會館の建設 スポーツ日本の今日をあらしめた父としてその逝去を惜まれた故岸博士の御遺族より、博士生前の意思に基いて運動會館建設の爲に百萬圓を日本運動競技界に提供された。大日本體育協會では十月二日緊急理事會を開き、全會一致感激してその寄附を受納し岸記念運動會館建設委員會を設けて準備に着手する事となつた、會館の内容は、室内の排籠球・庭球等の出来る五千名を收容し得るものとハンドボール・ホーリング小競技場、更に清淨裝置の觀覽席五千名を收容する室内10米プール、その他各競技團體の事務所、會議室等を備へる豫定の由、極東後灰色の雲に閉されたスポーツ界に突然

青空を見出した様な心持よいニュースである。

武勳赫赫 本聯盟標準泳法委員、海軍砲術學校體育課長太田實中佐は襄きに上海事變に陸戰隊として砲煙彈雨の中を奮戦され目出度凱旋されたが、八月二十三日の論功發表に於て金鷄勳章功四級を授けられた由。

役員變更 全國學生水上競技聯盟主事林忠雄氏は此の度都合によつて辭され、渡邊寛二郎氏が變つて同聯盟主事となられた。

標準泳法委員主任の小林三次氏も務めの都合によつて辭されその後任として白山源三郎氏が主任となられる筈。

競泳を語るの會

クロール篇・その一

昭和八年十二月二十一日
日本水上競技聯盟事務所

(出席者) 松澤一鶴、宮畑虎彦、高石勝男
野田一雄、齋藤巍洋、田畑政治、鶴岡英吉

ま へ が き

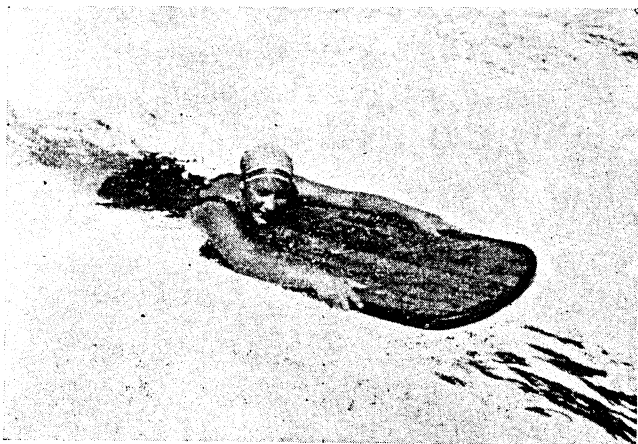
日本の水泳界の指導の立場にある人達の競泳理論に對する個人個人の意見は是まで度々その著書或は新聞雑誌等に依つて知る事が出来たのであるが、それ等の人達が「何故斯うなければならぬか」と言ふ各自の論據を持寄つて互に語り合ひ討究し合ふ事は是非必要なことでありながら是迄行はれなかつた、昨年の暮たまたま滿洲から宮畑氏が上京されたのをきっかけとして、上記の主にも今までのオリンピックにコーチ關係として行かれた諸氏に集まつて頂いて泳法に對する(殊に初心者指導に對する)各自の主張なり見解なりを忌憚なく闘はせて頂く事が出来た。平泳と背泳の部門は已に本誌に連載したが、今回より愈々クロール篇に入り、日本式クロールの大部分をなすと言はれる「足の理論」に就いての諸氏の意見をなるべく詳細に本誌に纏める事にした。

クロールの足の練習法は

鶴岡 それでは是から愈々クロールに移りますが、松澤さん、順序として先づ、クロールの足は何も言ふ風にして強くする練習をやらして居りますか。

松澤 練習法としてはボールに掴まつて身體を浮し乍らバタ足の練習をやる以外には餘り好い方法はないと思ひますね。

ヘレン・マガソン嬢のビーチング練習



横山隆志君のフォーム

鶴岡 其時に特に注意を要すると言ふ事は……。

松澤 僕は其時になるべく腰を落すと言ふ事です。さうして足だけの練習だからと言つて餘り意識して足首を強く使はず、詰り足首に水がよく當る様にキビキビした足で泳ぐ事、よく無暗に足や腰や腿まで硬直する程力を入れる人があるが、さう言ふ事の無い様に。それから身體を進行させ乍らすると言ふ事は足の練習に取つて一つの重大な要素だと思ふ。

齋藤 其場合に僕の意見としては、ボールや何かに頼つて居ると上體が硬くなるから、物に頼る場合は板でもボールでも小さい物を使つて、唯呼吸を助ける事が出来るだけの最少限度の物にする。其の時に特に注意する事は出来るだけ大きなバタ足をやらせる。さうすると腰がグツと伸びて来て、頭の方が上つて足の方がズツと下にさがる調子を覚えて来るから一番早道ではないかと思ふね。その方法を今年立教の本田君や根上君に皆小さい板を持たして練習させて見た所、400米を毎日レコードをとつて、最初8分30秒位、それから7分50秒位迄にする事が出来た。だからさう言ふ風にやつて足が旨く蹴れる様になると足のスピードが付いて来て、手も大事の所をよく搔ける様になり、後は出来るだけ澤山泳いでベースの練習を積む事だ。

宮畑 さう言ふ様な、足の練習をすることは全く必要だと思ふね、唯漫然と泳いでると足は殆ど使はないでも濟ませる。特に吾々の様に足の比較的弱くて手先だけで泳いで居る者は偶に足がけて泳いで見ると實に足の弱い事を痛感するね、だから手を止め

て足だけで練習さす事は選手に最も必要だと思ふ。

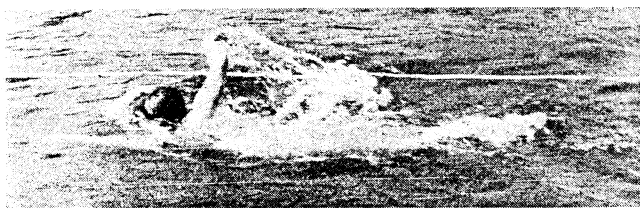
足の練習にはボールを持つバタ足と プールに掴るとの何れがよいか

高石 ボールを持つてバタ足の練習と言ふ事は。あれは50米とか100米とか言ふ長いプールだと宜いが、早稲田の様な25米の短いプールだと、行くと直ぐターンがあるから、遂に苦しいのでターンまで行くと、どうしても休む様になる——そこは人間だから仕方がない、人に強いられてやつて居るのでなくて自分で自發的にやつて居る場合でもつかれるものだからターンの所でなまけてしまふと言ふ様な事になる。だから25米の様な短かいプールだとボールなんか持つてやるより、プールの端に掴まつてバタ足をやる方が十分やれて宜いと思ふ。

齋藤 掴まつてやるバタ足は、掴まつて身體を浮かして居るのだから、その足の動かし方がどんな動かし方でも——唯足を痙攣させた様なものでも、膝の關節を曲げてしまつた様な悪い動かし方でも、又ほんとに強く打つて居る宜い動かし方でも——ただバタ足でありさへすれば水煙りで同じに見えて宜い悪いが判らないから、掴まつてやるのは駄目だと思ふ。

宮畑 初心者は何うしてもプールの端に縋つてしまつて本當の足を覚え難いから、僕は其の時斯うやらせてゐる手を出るだけ伸させて、ほんの指だけプールの端に觸れさせて「肩を沈めろ沈めろ」と八釜しく言つて決して縋らせない様にしてゐる。縋らせたらもう全然駄目ですからね。

齋藤 それも一つの方法だと思ふけれど一體足の練

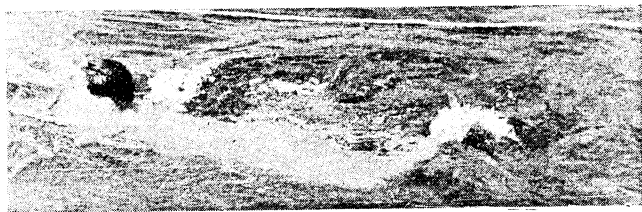


牧野正敏君のフォーム

習は何の爲の練習か、それが根本問題だと思ふ、決して身體を浮かせる爲の練習でなく、身體を前に進ませる爲の練習だから、どんな小さいプールであらうとも何かを持つてスピードを足だけで出す——身體を進ませる爲の足の動かし方を會得させる練習方法でなければならぬと思ふ。

松澤 僕も其の方に絶対賛成です。

齋藤 それに最近の選手でターンで休むと言ふ様なのは殆どないと思ふがね。僕の昨年試みた所では今の選手はどんな練習でも皆競争意識を持つてゐるから案外今までの様な風ではない。



ボロから轉向した板上安太郎君の特殊なビート

松澤 しかし、25米のプールでは確かにさう言ふなまける機會が出来て来るね。

高石 それは實際、僕自身でさう感じたのです。

松澤 けれども、なまける事と足の練習方法の可否とは別問題だと思ふ。なまけるのは何とかして止めさせても本當の足の利かせ方を練習させなければ効果は少ないじやないか、實際プールに掴まつてやるのは初めの中こそ苦しいが、暫くすると非常に楽になつて30分でも40分でも幾らでも続けられるけれども、一度ボールを持たせてやらせて見ると直ぐにヘタバルのでも判る。一體クロールの足と言ふものは、決してプールの端につかまつてやる様に身體が停止して唯足だけが上下に動くものでなしに、身體が進み乍ら足が水中に動いて行く運動、言換へるならば足全體が水の中を（水を後方に押しつゝ前方へ）斜面を這つて行くやうな調子で以て動いて行く事、高石君がいつぞや讀賣に書いてゐた様に櫓の運動に似てゐると言ふ言葉は非常に好い言ひ方だと思ふ。櫓は水平の運動を以て（水を後方に押しつゝ）左右の斜面を這つて行くけれどもクロールの場合は縦に這つて行くわけで、其所に進行の要素があるのであるから、それを練習で呑込まなかつたら幾らプールに掴まつてバタ足をやつても意味がないと思ふね。なまけることは何とか止めさせて、たとへ25米でも身體を沈ませて、足だけで進行させる練習をやらせれば相當効果があると思ふ。

齋藤 掴つたバタ足を一時間と足だけで進むバタ足を四百米やるのと同じ位ひです。

ビートは何ふ言ふ氣持でやつたらよいか、それを初心者に教へるには

鶴岡 それでは、その足の使ひ方ですが、初心者にどう言う心持でやれと言つたら一番適切に判るかね

宮畑 どうもそれは、斯う言ふ言ひ方するより他はないでせう、兩方の足を上に持つて行く事は考へないで下に行くだけの足を考へると、それを齋藤君も足の甲だけを考へると言ふ様な言ひ方をしてゐたね

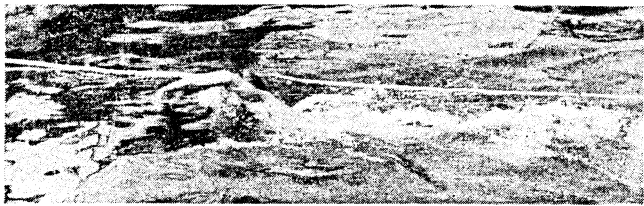
齋藤 僕の足の甲だけ考へると言ふのは下へ行く足だけを考へると言ふ他にもう一つ足首の力を抜けと言ふ事を意味してゐるので、足首は力を抜いて自然

の儘なら下つて(曲つて)ゐるそれを力を抜いたまゝ打ちさければ足の甲に水が當つて一度上り、足が下り切つた時に足の甲は又元のまゝにさがる、その間に水を後方へ足の甲で煽るその感じ、それがクロールの足のキツクの呼吸だと説明してゐる譯だ。

松澤 しかしそれは意識しては出来ないだらう。

齋藤 それは足首の力を抜くと必ずさうなる。

松澤 意識しては出来ないから自然にさうなる様に、膝の力を抜け、足首の力を抜け、餘りハリキらない様に、ドンと下に打てるだけ打て、さうして下に行つたらその足は忘れて了つて次に別の足を考へ



遊佐正憲君のフォームその一

なさい、さうすればそのはずみで打つた足は浮いて來ると言ふ位の程度にしか説明出来ない譯だね。

齋藤 全く、斯う言ふ風に意識してやれと言ふ事は言へないそんな事を言ふと却つて難しく成て了ふ。

松澤 後で理窟を聞かせて判かる人なら宜いが全然初心の人には、結極見せて教へるより他はない。

初心者の陥り易い癖、それを直すには

鶴岡 それから例へばビートの内に初めと終りとあるでせう、それが一尺打つものならばその中のどの所を力を入れて打つかと言ふ事、打ち初めか、中ごろか、終りか、或は全部一樣に打つか、是は初心者には大事な點だと思ふが。

野田 それは終りに行く次第に段々強くなるんじゃないですか。

松澤 それも意識しては教へられないね。足を強く打てと言ふ以外には言へない。併しそれを説明して呑込ませると言ふ事は本常に難しい問題であつて、素直な足を問題なしに覺えて呉れた人なら宜いけれども——或は今の選手連中だつたら其邊は多少の違ひはあるけれどもまあ問題なしに要領よくやつて居るがね——所がどうも地方なんかへ行つて所謂コーチなんと言ふ役目を仰せ付つて見ると飛んでもない足の硬いの打突かる、無暗に足をカチカチにしてゐる人に出會つた時は一體何う教へやうかホトホト困る場合があるね。殊に斯ふ言ふ質問を受けた事がある、足を強く動かさねばいけないと思ふのですが足の何所へ力を入れたら宜いでせうかと聞かれた事があるが、是は無理もない質問だとも思ふ。

齋藤 それは腿へ力を入れて、膝關節と足首關節の力を抜いてやるより仕方がないでせう。

松澤 所が其の腿へ力を入れて、と言ふひと言で膝關節も足首關節も硬くなつてしまふ人がある。

齋藤 腿へ力を入れる様になれる迄にも順序があつて、いきなり入れるとそんな結果になるから、先づ初め足首をよく動かすバタ足だけをやつて、そのバタ足が旨く甲で打てる様になつた時、少しづつ腿に力を入れさせれば旨く打てる様になる。

松澤 その旨く打てる様になる迄の苦心なんだから、いざ説明する場合に困つてしまふ。僕はさう言ふ場合に足全體の重さを旨く使ふやうにしろと言つて居ります。それ以上に力を入れる必要はない、中には足が硬くて却つて効果の擧がらない人には寧ろ足に力を入れるなど言つて強制する場合があるね。

高石 僕はさう言ふ人に出會つた場合には實際やらして、自分で其人を水の中に抱いてしまつて、自分の思ふ様うに動く迄手で以て動かす。さうすると割合に早く會得しますよ。

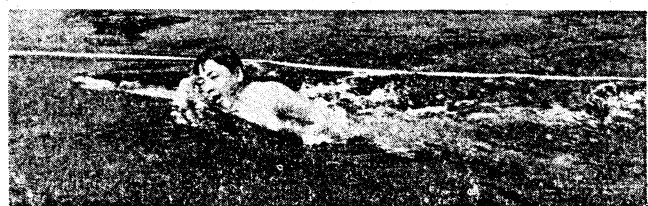
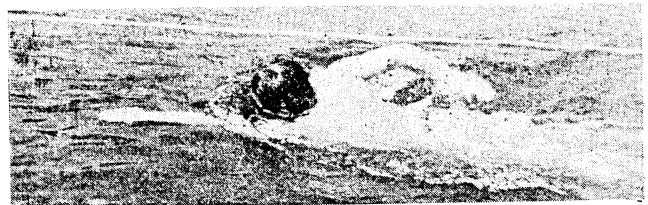
齋藤 そんな事をするよりも、さつき言つたバタ足をやらせれば一番早い、不必要な力が入つて居れば一分位で直ぐ疲れて了ふから。

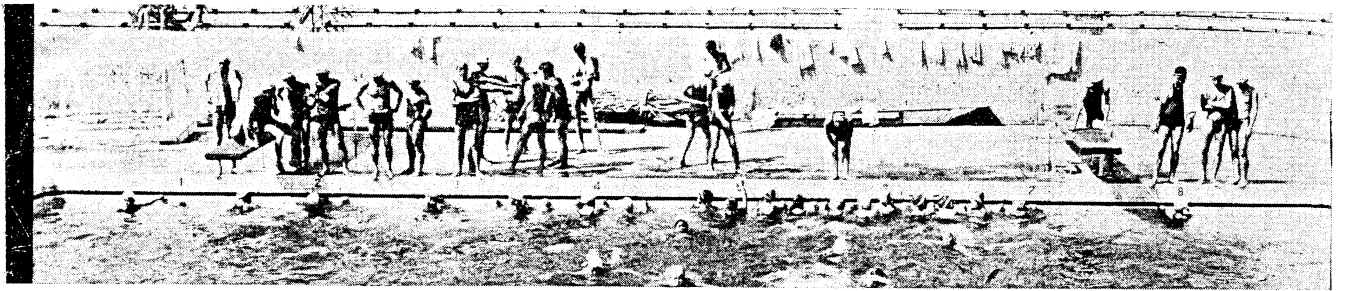
高石 所がバタ足だけだと出来る人でもいざ放り出して見ると足が縮まつたり餘分に力が入り過ぎたりして出来ないのが非常に多いのだから。

松澤 そこに行くまでの苦心だよ、本當にそこまで行かないのが非常に多いのだからナア——。

宮畑 そんな人は未だバタ足が完全に出て居ない人です、バタ足が本當に出来るやうになつたらバタ足だけで斯うして泳げるのだからと言つて僕は兩手を伸して自分でバタ足を實演して見せて、どこまでもバタ足から覺えさせる様にしてゐます。難かしいからと言つて逃げてはい、けないクロールはどこまでもその基本から入る様にしなければならぬと僕は思ふ。

遊佐正憲君のフォームその二、その三





本年度水泳指導者講習會概況

小林 三次

本聯盟主催に依る第五回水泳指導者講習會は去る七月一日より十日迄十日間、明治神宮プール及び慶應病院細菌學教室に於て開催せり、本講習會も回を重ねる度に改善せられ本年度に於ては其面目を一新せり。然し尙多くの改良せらる可き點のある事を感じさせられ、今後益々諸君と共に研究努力して完全なる理想的のものとし國民皆泳の實を擧げる様努力して行きたい。

今回講習生諸君が熱心に研究せられた事は我々主催者の一人として厚く感謝すると共に、またに御多忙中にもかかわらず特別講演をお願いした浦本政三郎氏、暉峻義洋氏、柏原政勝氏、金子魁一氏等の御助力に對し厚く感謝の意を表する次第であります。講習時間は毎日午後十二時半より午後五時までとせし、練習時間に不足を生ずる爲、午前中を自習時間とし講師助手数名出席して指導の任に當る事とした、尙二日午前中東京基督教青年會を見學し、七日午後六時より本所練町小學校に於て映畫會と座談會とを開催せり。

講習會の種目及擔任講師助手

本邦水泳界ノ趨勢	末弘嚴太郎
標準泳法	石本巳四雄
本田 存 原 正一	佐々木 救
白山源三郎 河野 司	
水 泳 史	飯田光太郎
競 泳	松澤 一鶴
救 助 法	森 秀 臣
水 球	吉本 祐一
飛 込	島崎 保正
水泳指導者心得	本 田 存
水 泳 醫 事	岡本 勁一
水泳豫備運動	柳 田 亨
渡邊 延 中村 豊 野田 一雄	
河野 司 小林三次 猿橋 清	
大串 泰造 野知浩文 五十嵐力英	
關 雄次郎 小木曾宏 笹島彦次郎	
山田 秀雄 延東善太郎	

本年度講習會申込人員一九八名中女子十二名、受講者一五五名中女子十二名、にて十日午後一時閉會式を行へり。

水泳指導者檢定試験

本聯盟開催の水泳講習會も年を追って従つて盛大になり行く事は今更説明する迄もない事ながら、昨年までは水泳

講習會と指導者資格檢定とを同時に行つて居たが参加者の増加と種々の都合より是等を分離して別個のものとして行ふ事となつた、本年は其の第一回目である、水泳の普及發達は我々直接指導し普及せしむ可き事の必要なるは勿論なれども、良き指導者を養成し、其の人々に依つて廣く我國全部に教導することこそより必要なのである、それよりして尙聯盟に於て指導者に對する講習會を行ふ故なのである、此の檢定試験も定期に一回、臨時にも行ふ事を得るものとして出来たるものである、本年は七月十日午後實技、十一日實技、十二日筆答を行つたのである。

其の試験課目としては筆答には口答を加する事とし、實技には、1. 潜水二十五米、2. クロール百米、3. 背泳五十米、4. 平泳百米、5. 拔手、6. 立泳十八米、7. 飛込二米半ヨリ、8. 伸泳 9. 浮身 10. 五百米以上泳グロト、11. 救助法

以上十一種目中より數種目を行ひ。筆答は本年度発行の水泳指導要項所掲に依つて行つたのである。

本年檢定委員は
石本巳四雄 飯田光太郎 本田 存
岡本 勁一 松澤 一鶴 原 正一

白山源三郎 佐々木 救 森 秀 臣
吉本 祐一 島崎 保正

以上十一名に委嘱せり。
尙申込人員九八名中男九四、女四名にて、受檢人員七四名中、男七〇名女四名
合格者男四二名、女三名、合計四五名であつた。

合格者氏名

平本善太郎	日野求一郎	藤村 薫
田賀 正道	坪川 敏郎	勝又 八郎
喜多村三郎	木内 泰次	星野 清
牧野豊一郎	牧野 幸雄	三島 正一
米谷 義郎	横田 正清	山田 喜作
岩松愼太郎	今村 竹利	石見 善作
石井 廣一	稻村新太郎	伊藤 旭
植木 四郎	恩田 逸夫	小木曾 瀧
大野 一雄	坂本 忠	中瀬 庄七
永井 佐富	中村 常郎	栗本 良子
田中婦美子	佐野 幸	濱田 勘太
木村 勝雄	松田 正秀	澁谷 秀夫
佐藤 令造	玉崎 敏雄	足立 保三
神崎永次郎	水谷 勇	佐藤彦一郎
佐藤 芳藏	菊地爲太郎	森川 信

以上四五名

第二回東京小學校大會

眞の「水泳日本」を打ち建てるには先づ小國民より、この意味に於て日本水上競技聯盟を母體として皆國皆泳の旗幟の下に昭和七年東京小學校水泳聯盟が創立されてより着々と歩を進め本年は九月一日(土)二日(日)と第二回目の東京小學校水泳大會が舉行された、主要記録及び大會狀況は次の様であつた。昭和九年九月一日(土)午後一時 二日(日)午前九時 明治神宮外苑競泳池 參加校42校 出場延人員835人 一日雨 氣温21° 水温23° 二日曇 氣温24° 水温23°

4 男	200平 1. 村田 榮治(長井尋高)3:56.4	50平 1. 岩崎千枝子(二葉尋小) 55.8
50自 1. 池上 功(臨海尋小) 42.6	高 男	6 女
50背 1. 小林徳一郎(麴町尋小) 54.6	100自 1. 穂本 祐郎(長井尋高)1:18.8	50自 1. 吉田 文代(東郷尋小) 40.6
50平 1. 酒井 守(竹町尋小) 55.4	200自 1. 高橋 昇(京橋高小)2:56.6	100自 1. 竹谷 米子(二葉尋小)1:41.8
5 男	400自 1. 高橋 昇(京橋高小)6:22.8	50背 1. 木島 悦子(本牧尋小) 51.0
50自 1. 進藤 房吉(長井尋高) 39.2	50背 1. 井藤 榮次(京橋高小) 43.6	100背 1. 木島 悦子(本牧尋小)1:54.2
100自 1. 進藤 房吉(長井尋高)1:29.6	100背 1. 井藤 榮治(京橋高小)1:40.8	100平 1. 榎本 榮子(佃島尋小)1:56.0
50背 1. 金井 一(長井尋高) 52.4	100平 1. 西山 精三(愛宕高小)1:41.2	200平 1. 岩間 寛江(麴町尋小)4:33.0
100背 1. 金井 一(長井尋高)1:55.6	200平 1. 鈴木 源吉(長井尋高)3:35.4	尋女200リレー 1. 二葉尋小 3:05.4
50平 1. 加藤 孝(東郷尋小) 49.8	尋男200リレー 1. 淺草尋小 2:35.6	高 女
100平 1. 加藤 泰藏(四谷第三)1:53.4	高男400リレー 1. 京橋高小 5:22.4	100自 1. 佐藤美代子 愛宕高小)1:48.0
6 男	4 女	200自 1. 服部 校子(愛宕高小)4:52.0
50自 1. 松本 達雄(淺草尋小) 36.0	50自 1. 廣野 道子(第三日野) 51.8	50背 1. 窪田 リツ(愛宕高小) 50.8
100自 1. 小杉 寅藏(長井尋高)1:28.6	50背 1. 峰岸 稻子(赤羽尋小)1:07.0	100背 1. 窪田 リツ(愛宕高小)1:58.6
200自 1. 小杉 寅藏(長井尋高)3:19.2	50平 1. 田中 藤江(二葉尋小)1:00.2	100平 1. 榎本 久子(京橋高小)1:52.0
50背 1. 瀨口正太郎(淺草尋小) 44.6	5 女	200平 1. 木浦 輝子(愛宕高小)4:06.2
100背 1. 瀨口正太郎(淺草尋小)1:39.6	50自 1. 大倉 保子(久松尋小) 45.6	高女200リレー 1. 麴町高小 3:13.4
100平 1. 細川 安(佃島尋小)1:44.8	50背 1. 富山八重子(二葉尋小)1:02.6	

第二回三地方對抗女子水上競技會

日本水上競技聯盟主催、第二回全日本關東、中部、關西三地方對抗女子水上競技大會は八月廿六日午後零時半から京都二商プールに於て霧雨降る中に舉行された、本年は昨年の優勝チーム關西より記録保持者たる守岡、横田、松澤諸選手の出場が無かつたので關西チームの成績に大なる影響が有つたと共に本競技大會を記録上より見て非常に淋しいものにさせた。

中部チームは昨年活躍した前畑、小島、鹽見、小木曾の諸選手が何れも健在で、大會劈頭から關西チームをリードし300米メドレーリレーに4分15秒並に100米平泳に前畑選手が1分26秒と二つの日本及び大會新記録を作る等、遂に昨年度優勝の關西チームを七點の差で破り八十五點を得て優勝した。二位の關西チームは七十八點を得、關東チームは競泳に於て河村選手飛込競技に於て大澤、林、山路選手等の奮戦の効もなく關西チームに二十四點の差で第一回同様三位になつてしまつた。是非共關東競泳チーム諸選手の奮起と反省とを此際促したいと思ふ。

終りに明年度第三回全日本三地方對抗女子水上競技會迄に各チームの選手共より一層の練磨を積み第三回本大會に於て新記録に新記録を重ね、火の出るやうな接戦を演じられんことを、本競技大會を意義有らしめる上からも又日本女子水泳界向上の上からも切に御願ひする次第であります。 氣温29° 水温28° 水路50米 (關東軍コーチ市口房子記)

300米メドレーリレー

1. 中部チーム	日本新	4:15.6
(小木曾、前畑、鹽見)		
2. 關西チーム		4:23.6
(泉、壺井、横井)		
3. 關東チーム		4:42.6
(須藤、大木、山東)		

得點 (東)1. (中)7. (西)3.

400米自由形

1. 小島 一枝(中)	6:06.8	3. 小木曾治子(中)	0:42.0
2. 古閑 久千(中)	6:31.6	4. 北島 時子(中)	5. 大木 櫻子(東)
3. 河村 静子(東)	6:34.8	6. 西尾恵美子(東)	
4. 大澤 保子(西)	5. 太田隆子(東)	得點 (東)3 (中)7 (西)12	

得點 (東)6 (中)12 (西)3
和田和子(西)はフアウルにつきオミット

50米背泳

1. 泉 百合子(西)	0:40.6	1. 前畑 秀子(中)	日本新 1:26.8
2. 菱木 フサ(西)	0:41.8	2. 中村 芳江(西)	1:33.6
		3. 壺井宇乃子(西)	1:35.2
		4. 杉倉 愛子(中)	5. 原 秀子(東)

6. 山東 初子(東)
 得點 (東)3 (中)10 (西)9
50米自由形
 1. 鹽見 梅子(中) 0:33.0
 2. 渡邊こまつ(中) 0:33.6
 3. 横井 キヌ(西) 0:33.8
 4. 荒田 雪江(西) 5. 山田 道子(東)
 6. 須藤 菊代(東)
 得點 (東)3 (中)12 (西)7

- 飛板飛込**
 1. 大澤 政代(東) 62.62
 2. 香野夫佐子(西) 59.20
 3. 横山 周子(西) 49.42
 4. 林 悦子(東) 49.40
 5. 大澤 禮子(東) 45.84
 得點 (東)12 (中)0 (西)9

- 100米背泳**
 1. 泉 百合子(西) 1:30.2
 2. 小木曾治子(中) 1:31.8
 3. 初田 久子(西) 1:33.6
 4. 北島 時子(中) 5. 大木 櫻子(東)
 6. 宮崎登代子(東)

三地方の飛込に就て

島崎 恵美子

第二回三地方對抗女子大會の飛込競技には關東から大澤政代・禮子・林悦子・山路明子の四人が参加した、8月26日京都に着いたがどう云ふ譯か競技場たる二商プールが水換の爲め使ふ事が出来ず結局三高プールを拜借したがとても使へさうもない飛板なので殆ど其の日は練習をする事が出来なかつた、競泳と違つて飛込は殊に板に慣れなければならぬのに斯う云ふ事に成たので少し心配になつた併し其の翌日即ち競技當日の午前中には割にゆつくり練習が出来たので思つた程悪い結果にはならなかつた。

二商プールは通りの直ぐ脇に在つて幅が狭く十米の臺の上に立つと前の家の屋根に直接飛込む様な気がするので皆はこわがらないとかと心配したが、割に平氣で好く練習してくれたのでうれしかつた、飛板は少し重いがバネが強く大變良い板なので之れには皆大喜びであつた、

8月26日午後2時30分から飛板飛込競技が初まつた、開始少し前に思はぬごたごたが起きた、と云ふのは、どう云ふ

- 得點(東)3 (中)8 (西)11
200米 泳
 1. 前畑 秀子(中) 3:05.8
 2. 壺井宇乃子(西) 3:20.6
 3. 中村 芳江(西) 3:24.8
 4. 杉倉 愛子(中) 5. 原 秀子(東)
 6. 齋藤 房江(東)

- 得點 (東)3 (中)10 (西)9
100米自由形
 1. 小島 一枝(中) 1:15.6
 2. 鹽見 梅子(中) 1:16.0
 3. 谷口美代子(西) 1:20.0
 4. 横井 キヌ(西)
 5. 須藤 光代(東)
 6. 太田 隆子(東)

- 得點 (東)3 (中)12 (西)7
高飛込
 1. 大澤 禮子(東) 29.82
 2. 林 悦子(東) 26.32
 3. 山路 明子(東) 24.36
 4. 香野夫佐子(西) 23.82
 5. 横山 周子(西) 19.52

- 得點 (東)16 (中)0 (西)5
400米リレー
 1. 中 部 {鹽見、小島} 5:22.6
 チーム {大倉、堀}
 2. 關 西 {谷口、永井} 5:26.4
 チーム {横井、荒田}
 3. 關 東 {太田、山田} 5:36.4
 チーム {河村、須藤}
 得點 (東)1 (中)7 (西)3

得 點 表 (採點法 7. 5. 4. 3. 2. 1. リレー 7. 3. 1)

	300メドレー	400自	50背	100平	50自	飛板	100背	200平	100自	高飛込	400リレー	計
關 東	1	6	3	3	3	12	3	3	3	16	1	54
中 部	7	12	7	10	12	0	8	10	12	0	7	85
關 西	3	3	12	9	7	9	11	9	7	5	3	78

手違ひか飛板飛込の規定飛が關西の方に通知されてなかつた爲關西の方は選手權の規定飛でやつて來たのである關東は女子大會の爲に定められた規定飛でやつて來たので今更變へる事も出来ず大變困つた、しかしわざわざ東京から出かけて來たのに試合を中止すると云ふ事も残念だつたので色々杉本先生や皆さんと相談の末規定飛には前飛蝦型、後踏切前飛蝦型を飛び選擇飛を四つとする事にした。

飛板飛込は關東から大澤政代、禮子、林悦子が出場し關西は香野夫佐子、横山周子が出場した。

大澤(政)は終始むらなく好く飛んだので第一位となつた、さすが試合に慣れてゐるだけに落附いたものであつた。

第二位となつた香野は選手權の時には良い試合をしたのに今度は規定飛の變つた爲第二の飛込に失敗其の爲とうとう最後まで追ひ付ずに了つた事は惜しかつた

第三位となつた横山は昨年と比べて大進歩の後は見へるが矢張場慣れしない爲か全體に點が少く三位となつて了つた、しかし其の前宙返り一回は實に驚く回轉をしてのびのびとして氣持の良い飛込であつた、林、大澤は練習の時素晴しかつたが矢張試合となつて之れも飛板飛込

に慣れず又選擇飛の數が足りない爲に遂に四位五位と落ちて了つた。

高飛込は關東は大澤禮子・林悦子・山明路子が出場し關西は前と同じく香野・横山が出場した、大澤は十米の二つともが大變好かつたし全體に普段の調子を出してゐたので、第一位となつた、やはり高い方が専門だけに落ち附いてゐた。

林は十米の走前飛に一寸失取しかけたがよく持ちこたへて入水したがやはり之れ點が一寸悪く第二位となつた。

第三位となつた山路は初めての遠征にも拘らず割に落ち附いて普通の調子を出し前の二人に續いた事は大變嬉しかつた、關西の香野は十米の走前飛に大失敗をし五米の後一回に大いに頑張つたが遂に四位となり横山は高飛込に慣れないらしく全體に少し不安の所が多く後一回に失敗し五位となつた、此の大會は一寸とした不注意の爲選手が思ふ存分の試合をする事が出来なかつたのは氣の毒であつた。本年も又昨年と同じく關東關西のみの試合であつた事は大變淋しく早く中部からも出て來て本當の三地對抗をした。殊に中部の名古屋には立派な飛込専用プールが二ヶ所もあるのであるから一層の努力を望む次第である。

● 雑句場欄 ●

早大水泳部対記者團ラグビー戦

河童の頭の皿にまだ水気があると見えて早大泳部の面々、素晴らしい元気でシーズンオフのトレーニングにラグビーをやつてゐる、先日記者団チームと代田橋明大グラウンドで華々しく一戦を交へ15対16で記者團に惜敗した、当日は雨が降つて水気は充分にも拘らず記者團にヒネられたのはどうした譯だらうと思つて後から聞いて見たら記者團のタイム直前のトライが、何うも少し程度を越して要領が良さ過ぎた様である。記者團の齋藤巍洋氏・先輩木村象氏はT・Bの牧野正藏君の駿足に見事ぬかれたさうである。破れたとは言へ早大陣の牧野、友田(弟)、高木君等の名プレー振りは記者團を墜着たらしめたとの事。

ニツボン・クロールの輸出

かねて濠洲より、此の冬同地に催されるビクトリヤ州獨立記念祭の水泳競技に日本の選手を是非派遣して欲しい旨再三面書して申し送つて来たが、九月中旬會長グリーンソン氏が來訪せられ、切に派遣方を要望せられた。NSRでは熟議の結果、背泳の清川正二(商大)短距離坂上安太郎(早大)の兩君を送る事に決定した。なほ濠洲側では長距離の選手をもとの意向であつたが、ベルリン大會も近い事であるし、選手達の健康上の事も考へて結極兩君だけで出掛ける事となり、去る11月16日北野丸で神戸を出帆し渡濠の途に上つた。

濠洲ではブリスベン、シドニー、メルボーンその他の土地で轉戦競技を行ふ筈。

東京を發つ時二人ならべて『仲よく行つて來なさい』と言つてやつたのが餘程氣になると見えて、18日附けの上海よりの便りには『終始、仲良く、元氣で行つて來ます、そして頑張ります』との消息があつた。清川君と坂上君、どちらが彌次さんで、どちらが喜多さんやら、免に角、「彌次喜多濠洲紀」でも本誌に寄せて貰いたいものである。

もう一つ、「クロールは日本に限る」

と言ふ譯でもあるまいが、ブラデルの海軍體育協會から外務省を通じて日本の競泳コーチを送つて呉れとの注文があつた、同國排日移民法案撤回の氣運にある今、兩國の親善に寄與する所大であるから是非との外務省の要望もあり、NSRは適任者齋藤巍洋氏を送る事となつた。12月17日神戸出帆の筈、一ケ年の約束にて、落ち付く先きは同國リオデジヤネイロ。

目下渡航の支度に慌しい齋藤氏を捕へて「巍洋さん『アマゾン河を泳ぐの記』でも書いて呉れヨ」と商賣氣を出せば『それより鱈皮のフンドシでも送つてやらう』

入江稔夫君の就職

早大水泳部の主將入江稔夫君は來春愈々理工科を卒業される筈で、先日どうした事か煤煙だらけの顔をして聯盟事務所へやつて來て『此の頃は機關車運轉の實習で今日も貨物列車を運轉して國付津まで住つてきた歸りですよ』

との話、聞く者一同『へー君が運轉するのかい、氣車がバツク、ストロークをやりやしないかい？ それに第一君ぢあトンネルに頭がつかへて困るだらう？』『いえ、そうぢありませんよ、僕あその、僕のやるのは「ソレ、トンネルに入るぞ！」つて紐を引つばつて氣笛をポーポー鳴らす役ですよ』

同君は先月日立製作所の助川工場に就職が決定した。就職が決定したので學校を落ちない様に是れからうんと勉強しなきてやならないといふ、やつぱりあらそはれぬもの行き方が少々バツクストローク式だ。

轉居通知

名譽會計奥野良氏は大森區雪ヶ谷409白山源三郎氏は横濱市中區西戸部境ノ谷 1693 に移轉された、且つて慶應軍の飛込選手でミスター・オケラの勇名を馳せた坂卷仁次氏は内務本省より廣島縣内務部地方課に轉勤せられ同市平野町 662 に移轉された。

しみずんおふカツパとりどり

スキタ・サンタロ

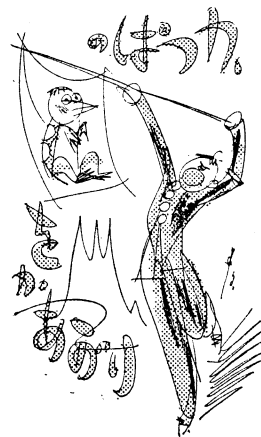
1
まどもあぜるカツパがこれは、また



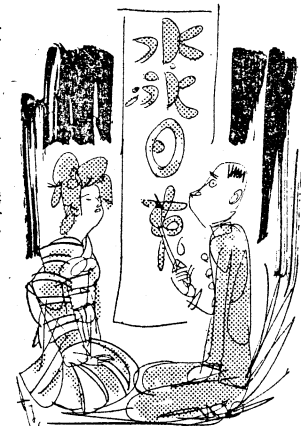
2
ミス、一九二五年の



3
何となく泳ぎたくつて身體が



4
來年のおかきぞめの權古、



小堀流後繼決定

白山源三郎

小堀流踏水術第七代の師範たりし小堀平七先生が去る四月十二日逝去されたことは其當時紙上にも傳へられ周知の事である。永く學習院の水泳師範たり常に高貴の方々の水泳御相手をもなされ我國古流游法に於ては得がたき巨匠であつて其逝去は斯界の爲に上下より惜まれた所である。

其游法の卓絶と流内の統一の堅實とに於て今の時代には珍しい當流を先生長逝後も永く維持進展せしむることは我國水泳界の爲に最も望ましき事であつて其爲には速かに次代の師範の決定されることが必要であつた。

越えて七月十七日故小堀先生の今では唯一の御實弟なる城義核先生が第八代師範たることを承諾された旨を諸方に御通告された。其全文を掲げて見ると、

今般小堀流踏水術師範小堀平七コト死去ニ付高弟一同ノ推薦且同門人中ノ懇願ニ依リ不肖小堀流踏水術師範繼承致候間此段謹言候 頓首
昭和九年七月十七日 城 義 核

筆者は先生の門弟の實質上の末席であるが（先生の京都での門人では筆者が最後で文字通り筆者は最末席である）右の如き先生直筆の手紙を受取つて極めて自然の事とは思ひつゝも抑へ切れぬ喜びに躍り出したい様な気がした。小堀流踏水術の爲に又我國水泳界の爲に芽出度い事である。

城義核先生は其技術と其人格とに於て當代稀れに見る方で筆者が自分の精神的指導者として自ら定め尊敬措かざる人の一人である。又先生を知る限りの人々の間に於ては何人も等しく筆者と同感を抱くものであらう。かゝる事を公刊物中に書くことは寧ろ先生の日常の御性向の上より好まれない事であるから多言を憚るが唯簡単に先生を御紹介し併せて師範繼承を承諾された事情を述べることにする。

城先生は熊本に於ける水泳の譽れ高き猿木家に生れられた四人の男兄弟の末弟である。長兄は有名な猿木宗那先生である此先生に就ては紹介をする迄もあるまい今は既に故人である。次兄は西村と云ふ家を繼がれた様で長く長崎の鼠島水泳場に師範たり今猶其門弟が多數同地にある筈、此方は早く逝去された様に承る。次が小堀平七先生で猿木家より小堀流の家元に入つて小堀の姓を名乗られ今日に及んだのである。末弟が城先生で同じく城家を繼れたものと思はれる。幼少の頃より兄弟揃つて厳格な游泳の訓練を受けられ諸國に修業もされ、あらゆる辛苦をなめて今日の神技に達せられたのである。先生の壯年時代の殆ど全部は京都の武徳會游泳部に過され年々數千人の子弟の指導に當られた。其内には多數鍊達の游士も輩出し全國に散布して居る。筆者も京都に於て御指導を受けた一人である。先年京都を

辭されてより熊本に隱居され今日に及んで居る。早くより武徳會游泳術範士であつた。

小堀先生逝去后後繼師範の問題起るや熊本には多數の老高弟者あり（此中には有名な相撲の本家吉田追風氏もあり）其他門人多數あり之と東京に於ける小堀先生門人等の間に種々協議を重ね城先生を押すことゝなつたが城先生は老齡の故を以て故猿木宗那先生の令息眞壽夫氏を推薦された眞壽夫氏は退役陸軍中佐にして現在熊本に住はれ武徳會游泳術範士である又此方の令息即ち宗那先生の孫に當る方は東京高師在學中にて故小堀先生が特に仕込まれつゝあつた。然るに眞壽夫氏は又城先生の適任なるを主張して固辭され熊本高弟者は茲に困惑し度々協議を重ねた結果飽くまで城先生に懇望された。城先生ももだし難く故小堀先生の初盆の過るを待つて初めて承諾の意を表されたのである。

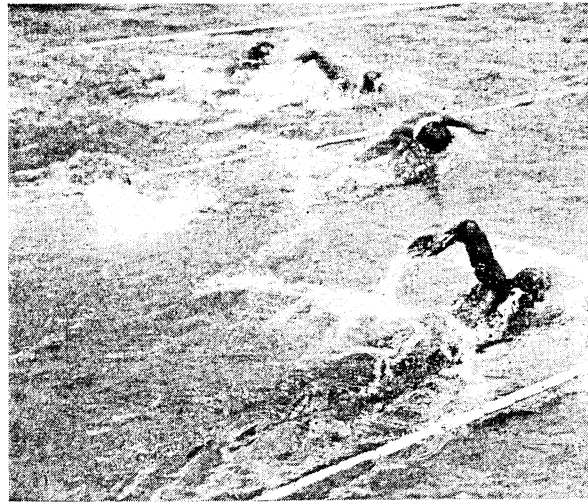
尤も小堀流の「宗家」又は「家元」なるものは小堀先生の遺言もあり小堀家に傳はるものである從而つて現在の小堀流宗家は小堀先生の令嬢こま子氏であり師範が城義核先生であると云ふことになる。故小堀平七先生のみは家元にして且師範であつたと解釋すべきであらう。

聞く所によると日本游泳聯盟の重職にある某氏が故小堀先生より相傳を受けたりと稱し故先生の初盆も終らぬに華々しき祝賀會を開かれたりと、相傳とは如何なる意味か不明なるも稍もすれば社會をして小堀流の後繼なるかの如く誤まらせる恐れがあるから誤解のない様に願ひたい。確かなる筋より聞く所によれば某氏の受けられたのは當流で云ふ「目錄」であつて早く云へば初傳である入門後少時にして或時期に貰ふもので之を貰つて居る人は全國に多數ある。某氏の公開の手紙には故先生に師事すること四十年とあるが四十年も師事して先生の病革つてから（先生御逝去の九日前四月三日とある）ヤツト之を貰いたと云ふのだから余程出來が悪かつたものと想像される。然るに其後又道場開設の通知を各所に出されたとの事であつて其事に就ては當流の内規上捨て置き難き點あり確か好意的警告を受けられた様に漏れ承る。孰れにしても某氏の如きは當流の承繼と云ふ重大事には何の關係もないのであるから誤解のない様に一言付け加へて置く。猶筆者は日本游泳聯盟の實質が如何なるものかよく知ることを得ないが小堀流の其方に關連されて居る代表者に於て確か聯盟近來の傾向が當流の參加當時の主旨に相違するものありとの意味かと思ふが理由は明示せず、家元及び師範連名にて脱退の手續をせられたと聞く、聯盟の爲に惜しむ所であるが當流としては不得止の所であつたらう。

(九・八・二九)

海外

歐洲選手權



情報

歐米の近況

歐洲選手權大會

隔年に行はれる歐洲選手權は本年八月中旬より全くオリアムピツクの番組そのまゝでマグデブルグに行はれた。タリス、ジータス、ウーデン等の一流を揃へただけあつて相當の出來榮えを示したが短距離のクシク、平泳のマルムストローム等の新星が現れたのは注目すべきである。主なる成績を擧げると男子に於ては

100米自	クシク(洪)	0:59.2(豫)	0:59.7(決)	優勝
	フイツシャー(獨)	0:59.6(豫)	0:59.8(決)	
400 自	タリス(佛)	4:57.2(準)	4:55.5(決)	優勝
	コストリ(伊)	5:11.4(準)	5:07.5(決)	
	シニョーリ(伊)	5:12.6(準)	5:11.9(決)	
1500米自	タリス(佛)	20:12.5(豫)	20:01.5(決)	優勝
	コストリ(伊)	21:25.4(豫)	21:01.1(決)	
100米背	ベスフォード(英)	1:11.6(豫)	1:11.7(決)	優勝
	キュツペルス(獨)	1:12.7(豫)	1:12.2(決)	
	ジエグリスト(瑞西)	1:13.1(豫)	1:12.6(決)	
	カールセン(諾)	1:13.4(豫)	1:13.4(決)	
	シュワルツ(獨)	1:12.9(豫)	1:14.4(決)	
200米平	ジータス(獨)	2:51.8(豫)	2:49.0(決)	優勝
	シュワルツ(獨)	2:49.0(豫)	2:49.4(決)	
	マルムストローム(獨)	2:50.4(豫)	2:49.8(決)	
	イエンゼン(丁)	2:53.2(豫)	2:52.6(決)	

800米リレー	(1) 洪牙利	9:30.2	(2) 獨逸	9:31.2
	(3) 伊太利	9:44.1	(4) 佛國	9:45.9

女子の方は和蘭を中心として素晴らしく男子に比べて將に驚異的である。即ちウーデンを始めマステンブロツク、アーレンド等は世界第一線の新鋭である。

100米自	デン、ウーデン	(和)	1:07.1
	マステンブロツク	(和)	1:08.1
	アーレンド	(獨)	1:10.3
	ブロンドー	(佛)	1:10.9
400米自	マステンブロツク	(和)	5:27.4
	デン、ウーデン	(和)	5:27.4

100米背	アレデルセン	(丁)	5:45.1	
	マステンブロツク	(和)	1:20.3	
	アーレンド	(獨)	1:20.4	
	オーベルスロート	(和)	1:22.2	
200米平	ゲネンゲル	(獨)	3:09.1	
	ベルツナー	(獨)	3:09.3	
	クラーク	(丁)	3:13.2	
400米リレー	1. 和蘭	4:41.5	2. 獨逸	4:50.4
	3. 英國	4:58.3	4. 丁抹	5:01.3

飛込競技

男子	飛板飛込	高飛込
1.	エツサー(獨) 137.74	シュトルク(獨) 98.79
2.	マーラウン(獨) 129.53	ライケルト(智) 92.17
3.	ライケルト(智) 129.28	リーブシユレーガー(獨) 90.12
4.	プサー(佛) 123.24	ボイダ(洪) 89.87

女子	飛板飛込	高飛込
1.	ヨルダン(獨) 74.78	シーヘ(獨) 35.43
2.	ラルセン(英) 68.10	スヨーキスト(瑞典) 31.54
3.	カツプ(獨) 65.56	クラーク(丁) 31.39
4.	ピリンゲル(瑞西) 53.67	ビエングル(獨) 29.45

水球はリーグ戦であるが兩雄獨逸と洪牙利が最後に優勝を争ひ結局 1:4(前半 0:2) で洪牙利が榮冠を得た。

此の選手權大會の結果總得點は次の通りで獨逸が壓倒的の優勢を見せてゐる。

(1) 獨逸	118點	(2) 洪牙利	72點	(3) 佛國	37點
(4) 伊太利	34點	(5) 英國	27點	(6) チェツコ	13點

短距離の新鋭

獨逸のフイツシャーは前項の歐洲選手權では二着であつたが十一月の始めプレーメンの25米水路で100米58.8 50米26.2の優秀なる記録を出した。これは長水路にしても59秒臺は確實なことを示し我が阪上、高橋級のものである。尙同じ會でキュツペルスは100米背泳に1:10.0 200米リレーではプレーメンチームが1:49.3 400米リレーでは同じチームが4:05.4の獨逸新記録を出して氣を吐いた。

今夏の米國競泳界

今年の米國の戶外シーズンは昨年に比べて數等の活氣を呈したが第一線に位すべき人の最高成績を擧げてみれば、

100米自	ピーター、フィツク	0:57.8
400米自	ジャツク、メデカ	4:47.8 (神宮) 4:38.7 (25碼水路)
1500米自	ジャツク、メデカ	19:20.0
100米背	ヴェンデ、ウエー	1:18.8 (神宮) 1:07.4 (25碼水路)
220碼平	ジョン、ヒツギンス	2:55.0 (55碼水路)
女100米自	オリブ、マツキーン	1:11.0 (50米水路)
女400米自	ルー、ペテイー	5:38.7 (50米水路)
女110碼背	エリナー、ホルム	1:19.2 (55碼水路)
女200米平	アンナ、ゴベドニツク	3:18.3 (水路不明)

ヴェンデ・ウエーのその後

日本に来て俄然強くなつたヴェレデ、ウエーは歸國後愈米國の早大とも云ふべきエール大學に入學してキツパスに指導されることになつた。かくして彼は來る伯林の覇權を狙ふさうである。

全英選手權大會

全世界の植民地より集つて來ると言はれる全英選手權大會は7月の末ロンドンのウイブルトンプルで舉行された。全部碼制である爲一寸判り難いが參考迄に記録と選手權獲得者を擧げて見ると、

男子 100碼自	ジョージ、バーレイ (カナダ)	0:55.0
440碼	ノエル、ライアン (濠洲)	5:03.0
1500碼	ノエル、ライアン (濠洲)	18:25.4
100碼背	ウィリアム、フランシス (スコットランド)	1:05.2
200碼平	ノルマン、ハミルトン (スコットランド)	2:41.0
800碼リレー	カナダチーム	8:40.6
飛板飛込	J. レイ (イングランド)	117.12
高飛込	トム、マーサー (イングランド)	83.83

女子の方は、

100碼自	フィリス、デュワール (カナダ)	1:03.3
440碼自	フィリス、デュワール (カナダ)	5:45.4
100碼背	フィリス、ハーディング (イングランド)	1:16.0
200碼平	クレヤ、デニス (濠洲)	2:51.0
400碼リレー	カナダチーム	4:21.8
300碼メドレーリレー	カナダチーム	
飛板飛込	ジャデイス、モス (カナダ)	62.67

全米女子戶外選手權大會

全米男子の結果は既に新聞にも發表され、その結果メデカ等の來襲となつたのであるが全米女子の戶外選手權は7月デトロイドの55碼水路で舉行された。その成績は次の通りであるが米國としては數年來の不出來であり一般に伯林

大會の望みは少い様である。

100米自	1. オリブ、マツキーン(シヤートル)	1:11.7
	2. レノア、カイト(カーネギークラブ)	
440碼自	1. レノア、カイト(カーネギークラブ)	5:40.2
	2. カザリン、ロールス(マイアミ)	
800碼自	1. レノア、カイト(カーネギークラブ)	11:50.7
	2. マリー、ルーペテイー(シヤートル)	
1哩自	1. レノア、カイト(カーネギークラブ)	25:10.5
	2. スー、ロバートソン(シヤートル)	
220碼背	アリス、ブリツヂェス	3:00.6
220碼平	アンナ、ゴベドニツク(チャイスホルム)	3:18.3
飛板飛込	カザリン、ロールス(マイアミ)	133.44
高飛込	ドロシー、ポイントン	90.64
300米メドレーリレー	1. マイアミ、ビーチ、クラブ	4:15.0
	2. ニューヨーク、女子水泳クラブ	
880碼リレー	1. カーネギー、ライブラリー、クラブ	11:13.3
	2. ワシントン、アスレチック、クラブ	

佛國選手權大會

7月下旬巴里の50米水路で行はれた佛國選手權大會は例に依つてタリスの獨り舞臺の感があつたがアフリカ北部の佛國植民地の選手が参加して相當の成績を示したことは注目されてよい。即ちチユニスのタレツプが100米背泳に1:17.0で優勝したのを筆頭に、アルゼリヤのチームが800米リレーに2着を占めた事等はアフリカ軍の爲に大に氣を吐いたものと言へやう。主な成績は

	男子	女子	
100米自	タリス 1:02.0	ブロンドー	1:12.4
200米自	タリス 2:18.0		
400米自	タリス 4:58.0	ザルガド フリユレー(同着)	6:00.6
1500米自	タリス 20:35.4		
200米平	シェーベル 2:55.6	グー ト	3:25.2
100米背	タレツプ 1:17.0	ブロンドー	1:25.6

アレデルセンの活躍

丁抹の女子第一人者、リリ、アンデルセンはコペンハーゲンの25米水路で次の美事な成績を見せた。

100米自	1:09.8	200米自	2:48.7
-------	--------	-------	--------

ピーター・フィツク

何時破られるかと思はれたワイズミュラーの世界記録を破つて驚かしたピーター、フィツクはシカゴの選手權ではハイランドの爲に思はぬ不覺をとつて日本に行き損ねたがその後奮然と續々好記録を出してゐる。即ちニューヨークのジョーンズビーチの55碼プールに於て、100米55.8と言ふ米國長水路新記録を出して氣焔を擧げた。ワイズミュラーの長水路世界記録57.8には及ばぬとしてもハイランド、フィツクと並べば遊佐一人に頼る日本短距離陣は苦戦を免れない。



國際水泳聯盟理事會議事錄

國際アマター水泳聯盟理事會

日時 昭和九年八月二十日 場所 ベルリン
出席者 議長 副會長 フアーン 副會長 ドウリニー
理事 デラヴ 名譽主事 ドナート
缺席者 會長 ビンナー 理事 ハーシュホン 理事
ホヂソン
無届缺席 理事 ヘンリー
傍席 AAU會長 ブランデー及主事 フェリス

議 事

- 一、一九三三年六月五日パリに於ける前回議事録確認
- 二 F.I.N.A. ハンドブック (34-6年版) ミスプリント訂正。
ダイビング表 Bの飛込第七のbをcに代へる事を一致確認、
- 三、國際ダイビング委員會の裁定承認。
以下の右委員會の下せる裁定は本理事會により一致確認さる
A、現行ハンド・ブック35頁の註、及び規則第32條E項末尾の規定する所は、飛込A伸び切り型 前飛のみに關する事。同飛込のb及びcに於ては腕の位置は競技者の自由たる事とす。
B、走り飛びを行ふ場合、競技者は飛版乃至固定臺の端より手前にて助走を止め(最後に)踏切る前に同一個處に於て二三回ジャンプする事は許さるべからず。之に反する者は零點を與へらるべし。
- 四、F.I.N.A. メダルの件
前回理事會議事録第14項に依り各加盟國より募集せる本メダル模型は主事に依り提出せられ熟議の結果、カナダマツピン & ウェブ會社の物撰定せらる。
尙ほ1930年6月1日ベルリンに於けるF.I.N.A. 總會議事録第12項に依り理事會に附與せられたる權限に基き主事は更に多少右の原型を變更せしめ、且つ製作者と契約交渉に入るを命ぜらる。同時に從來授與せられたる世界記録バッチは今後この新しき銀メッキ長方形F.I.N.A. メダルに改めらるべき事。右決定は新メダル完成と同時に効力

を發生する事。但し事前に測及せず。
五、世界新記録表の確認。(別項参照)

六、世界記録の取消

左の二記録は其れより以前により良き記録のありし爲世界記録たる事を取消さる。

女子800自、アンデルセン(丁) 12:07.8 1933, 7.26
コペンハーゲン(50米)

是れは前條中の米國カイト嬢の記録に依り取消、
女子100平、ヤコブセン(丁) 1:25.8 1933, 4.30

コペンハーゲン(33 $\frac{1}{3}$ 米鹽)

是れは前條中のオーストリア、デニス嬢の記録に依り取消、

七、世界記録申請遅延

米國カイト嬢の500自 7:02.6 1932.12.30 マイアミ(25Y)
是れは翌33年6月1日迄に主事の手許に申請せらるべき處、34年1月4日に至り始めて受理せられたるに依り公認せざる事と一致決定。

八、アマチュア規則の變更

現行規則の完璧ならざる處を補足する様次會總會に提唱する爲、1935年の次會理事會に先立ち各理事の考慮を求めらる爲に左記を廻狀として各理事に配附する事とす。

- A、米國A.A.U.規則第5條Iのd
- B、ドウリニー氏案

「アマチュアはスポーツに於て得たる名譽を、利益を得る目的の下に利用すべからず。商品廣告に自己の名を利用する事を承諾するか乃至は特定物品を自ら用ひる事により、是等商品の販賣者、製作者或は代理店より金員を受理すべからず、尙自己のスポーツの名譽の故を以てのみ職業を得、或は商取引を行ふべからず。」

九、國際スポーツ聯盟會議に依り採用せられたるアマチュア規則

1934年5月7日、ブラッセルに於ける國際スポーツ聯盟會議は、凡てのスポーツに共通すべき所謂最少限アマチュア規定を確立せんが爲に各スポーツの國際聯盟に對し左記の提唱をなす事を決定せる旨主事より報告せらる。

「總て、スポーツを愛するが故に娛樂として是を歡樂し間接又は直接スポーツを行ふ事に依り利益を得る意

途なきものはすべてアマチュアとす、各スポーツ國際聯盟は本原則を確實に統制實行する事。」

尙1933年ヴェイナに於て開かれたる國際オリムピック委員會に於て任命せられたる國際スポーツ聯盟の小委員會はアマチュア規則改正案を作成せる事、主事より報告、右案本會に提出せらる。なほ主事はブラツセルに於ける1934年5月8日國際オリムピック實行委員會に出席し前記小委員に任命せられたる事及び右小委員の會合が本年末までに開催せらるべき事、報告す。

本會はF.I.N.A. 規則改正は總會に於てのみ行はるべき事一致決議し尙前記國際スポーツ聯盟小委員會に對し熟議の結果、主事がその會議出席せる場合の態度を指令し且つ前記草案は1925年及び30年のオリムピック總會に於て決定的に否決せられたるブローケン、タイムに對する給與その他種々の問題を起す種となるべきに依り強く是に反對すべく要求す。

一〇、對ソビエツト・ロシア關係

本會に先立ち主事に對しポーランドより同國のクラブがソビエツト・ロシアよりの水泳選手と競技する事の承認を求め、その後取消したる事實あり、本會は右に對し規則第二十四條に基き加盟國と非加盟國の競技が許されざる旨注意を促す事と決す。

一一、飛込選手カーツ、スミス及びシマイカの競技停止

フェリス氏よりA.A.U.の名に於て左記通告あり即ち「カーツ、スミス並びエヂプト人にして米國に居住するシマイカの三名は1932年後半より33年前半に互り世界旅行を爲したるに際しF.I.N.A.規則第23條末尾に規定せられたる旅費計算書を提出せざるためA.A.U.及びF.I.N.A.の承認を得らるるが如き計算書を提出するまではアマチュア競技に對する出場停止を命ぜらる」

右に關し本理事會は本人の希望によりカーツの辯明を聴取せるも結極何れも右様の計算書を作成、先づA.A.U.に提出し承認を受けたる上は更にF.I.N.A.の承認を得る事を要すと一致決議す。

更にA.A.U.は右スミス、シマイカのマネジャーのサマルル氏に對し今後一切アマチュアの水泳乃至は飛込競技に對し公式關係を持つ事を禁ぜり。右並びに前記飛込選手に對するA.A.U.の處置は本會に於て一致承認せらる。

一二、平泳ターンに關するチェコスロバキヤよりの裁定要請

チェコスロバキヤより規則第34條の項に關し裁定を求めたるに對し本會は左の如く一致決定す、即ち平泳のターン及びフイニシニに於ける両手のタッチは同時ならざるべからず、但し同一の高さに於けるを要せず。

一三、平泳に關する米國よりの裁定要請。

主事は本年3月19日附を以て米國より規則第34條のA項平泳の腕の運動に關し、水面下に於て通常通り圓形に掻き且つ戻す代りに水上に抜いて戻す事の合法性に對し至急意見を求められたるに依り取敢へず個人的意見として右は現行規則により合法なる事打電せる旨、報告す。

右應急の處置は本理事會の一致承認を受けたれども、理事會としてはかかる泳法の發達を希望せず従つて前記規則34條のA項を適當に變更する様次ぎの總會に對し提案する事と決定。

一四、飛込表改訂

スウェーデン、デンマーク及ノールウエーの三國より、先に國際飛込委員會により新に飛込表に加へられたる種目の中には甚だ困難にして、アマチュアとしては練習時間の制限等より之に堪えざるが如き種目ありとし之に反對の書狀提出せらる。

之に對し本會は、國際飛込規則は1937年元旦迄改訂不可能に就き、次期オリムピアード(1937—40年)に考慮を受ける様國際飛込委員會に附託と決定。

一五、フライングに對するスウェーデンよりの裁定要請

スウェーデンの要請により考慮の結果規則第20條に關し競技者が出發合圖以前に、(或はリレーに於ては前泳者到着以前に) スタートせる場合は其者は出發臺上に戻るを要せず出發臺壁面に戻れば足ると言ふ事に一致裁定す。

一六、背泳スタートに關するスウェーデンよりの裁定要請

同國よりの要請により規則第35條のB項背泳スタートに關し兩手は出發合圖まで壁面(或は手摺)より離すべからずと一致裁定。

一七、第11回オリムピック水泳競技場

主事及び副會長ドウリニーは第11回オリムピック組織委員會の會長レバルド、主事デイム及び競技場設計者マーチの諸氏と協議の結果を左の如く主事より報告あり。即ち

オリムピック水泳競技場は競泳池を長さ50米幅20米とし別に飛込プール20米×30米、深さ2米乃至4.5米とする事。水は濾過装置により且つ攝氏21度乃至22度に加熱せらるべき事、その他諸設備共圓滑に利用せられる事を期し、觀客席は目下の所一萬五千乃至二萬人を收容する事とし尙出場以外時の選手役員の爲に充分良き座席を設くべき事の協定をなす。

別に通常の計時組織の外に電氣計時装置の設備を見るべく、飛込審判員の採點表示は電燈を以つて爲さるべし。右に關し本會は第11回オリムピック組織委員會に對しその好意を謝する事とす。

一八、國際スポーツ競技聯盟常置理事會加入の件

主事は右聯盟より本聯盟に對し加盟勧誘を受けたる旨報告すれども本會は右加盟を希望せずと一致決定。

一九、第二回大陸對抗リレーの件

主事はI.O.C. 會長バイエ・ラトウル伯及び前記デイム氏との本件に關する打合せ結果を左の如く報告提案す。

期日 1936年8月16日夕刻

場所 ベルリン・オリムピック水泳競技場

本會は右に一致賛成し主事に對し1932年ロスアンゼルスに於けると同様の打合せを各方面と完結する事を委任す

二〇、1910年・20年及び21年に作られたる世界記録に對する記録證授與の件

オーストラリアのポーレベア氏より彼自身が本聯盟世界記録證制度設定以前に作りたる世界記録に對し改めて記録證交付の要求ありたるに對し本會は全くかゝる希望の正當なる事を認むると言へども遺憾乍ら原則としてその要求に應じ難しと決定。

二一、加盟金未拂國に對する加盟停止の件

主事兼名譽會計の報告を聴取したる後左記各加盟國は再三の促告にも拘らず加盟年金納附を怠りたるを以つて今後すべての意味に於て非加盟國として取扱はるゝ事と一致決定す。

チリー、キューバ、インド、ルーマニア、ウルグアイその他の各加盟國に對し以上の五ヶ國は國際競技出場權なき事を通告す。

更に滞納國として前記五ヶ國よりはその滞納額少なき左の諸國は1935年1月1日迄に滞納加盟金を完納すべき事とし、然らざる場合は前記五ヶ國同様加盟權を喪失するものとす。

オーストリア、オーストラリア、チエコスロバキヤ、エストニア、ギリシヤ、ポルトガル 以上六ヶ國

二二、南米水上競技聯盟の件

南米に於ける水泳の普及發達及び本聯盟規則に依る同大陸選手權競技組織の爲、南米水上競技聯盟の成立を見、且つ本聯盟に對しその代表權及びスペイン語を F.I.N.A. 公式用語に加へる事の要望ありたる旨主事より報告、本會は右聯盟の成立を喜び且つ本年度選手權大會の模様を承知し度きも規則第 3 條に依る各加盟國別代表權以外には格別の代表權を認め難く、スペイン語に關しては本會としてはその採用を推奨せざるも次期總會の詮議を俟つ事と一致決定。

二三、規則書價段の件

1934年—6年版の更らに普及せられん爲從來賣價一部15フランを10フランに引下げる事と一致決定

二四、規則書改訂の件

主事はチエコスロバキヤより全面的なる改訂案を入手せるもかゝる草案を次期總會に提出するための手數と費用に鑑み本會はチエコスロバキヤに對し右草案を英獨佛三ヶ國語に翻譯し相當部數を本聯盟に提出するか乃至は規則改正に當る部分だけを提案さるる様勧告する事と決定。

二五、オーストラリアに於けるライフ・ガーツ (サーフ・ベージング・アテンダント) の立場

1932年 8 月14日の總會議事録第22項に決議せる所が最近オーストラリアに於て實行され居らざる旨本會に入報ありたるに就き本會は主事をして同國に對し實狀問合せをなさしむる事とす。

二六、米國に於けるライフ・ガーツの立場

A.A.U. 會長ブランドイ氏は右の件に關し本年12月開催の A.A.U. 年會に對し本件を提出し若し A.A.U. にして今後 F.I.N.A. の會員たる事を繼續する意向ならば A.A.U. は本件に關し F.I.N.A. 規則第 17 條 C 項に追従せざるべからざ

る事を通告すべしと本會に言明し。且つ A.A.U. は右規則に従ふ事と信ずと言す。尙ほ同氏は本問題に關し歐米各々その事情を異にするを以て或は A.A.U. は1936年の本聯盟總會に對し本件に關し規則改正を提案する事あるべしと述べ且つ A.A.U. も等しく水泳を直接間接に職業化せしめざらん事を熱望し居れりと言明す。

二七、日本より規則改正案

種々規則の改正に關し、日本より提出せられたる廣汎なる提案は熟慮の結果、本會としては規則の改正追加の權限なき故、規則第12條に基き1936年ベルリン總會以前に各加盟國に通牒し得る様適當な時期に提案されるやう、日本に勧告する事と一致決定。

二八、世界記録確認の件

尙ほ日本より世界新記録證發行の時期に關し意見提出あり、從來主事の踏襲せる方法は世界記録申請入手次第適當と認むれば直ちに記録證書類を發送する方法にして従つて後に到り、其の前に作られたるより良き記録の申請ありたる場合は先に發送せる記録證取消の止むを得ざる場合もあり、本會は右の主事の方法を一致承認す、但し歐洲以外の國に於て世界記録が破られたる時は其の國の統割團體は右が F.I.N.A. 規則に合致する限りそれに対する申請書が郵送せられたる (或はせらるべき) 旨主事に對し電報を以て通告するを要すと決定す。

二九、世界記録取消の件

尙ほ世界記録審議に當つて從來主事の取れる態度即ち各記録はその作成の日附によつて前後を詮議せらるべく、申請書入手の前後に據らずとの立前は一致承認せらる。從而從來記録表に記載せられたる左記二記録は取消さるる事と決定。

男子100自 ワイスミュラー(米) 57.8

1924年8月17日(33¹/₃米)

女子500自 ノレリアス(米) 7:20.6

1928年1月2日 (25Y)

備考、後者の日附は記録表に1927年と有るは誤植

三〇、次回理事會日取及び開催地

1935年5月 ロンドン

詳細日取りは主事と英國水泳協會と適宜打合せの事と一致決定す。

三一、米國代表議長及び主事に對する感謝決議。

午前9時30分開會 晝食小憩 午後7時30分閉會 以上

議長 ファーン

主事 ドナート

注意 上述本年度 F.I.N.A. 理事會に對する吾が日本水上競技聯盟の意見は安部輝太郎氏が本誌 4 頁に執筆されて居ります故御参照下さい。

四月 19日常務理事會、晚翠軒 29日極東大會日本代表選手神戸出帆

五月 16日理事會、事務所 20日機關雜誌「水泳」24號發送 21日標準泳法委員會、事務所 23日記録委員會、事務所 26日水球委員會、事務所 28日理事會、事務所 29日全國學生春季リーグ戦開始

六月 1日標準泳法委員會、事務所 2日極東大會選手歸京 6日極東大會水上選手歡迎會、幸樂 10日早慶對抗水上競技會 12日標準泳法委員會、事務所 15日編輯委員會、事務所 17日三大學水上競技會 18日巡回コーチ打合、事務所 19日水球委員會、事務所 20日理事會、事務所 22日水球委員會、事務所 24日法關對抗水上競技會 26日標準泳法委員會、事務所 27日常務理事會、事務所 28日飛込委員會、事務所

七月 1日水泳指導者講習會開始 6日昭和九年度水上競技規程上梓 10日水泳指導者講習會閉會 11日水泳指導者檢定試験、神宮 常務理事會 事務所 21日關東選手權水上競技會 23日理事會、事務所 24日水球委員會 25日 27日 28日 東部高校水上競技會 28日 29日 東都中等學校水上競技會 31日理事會、事務所

八月 1日米國選手メデイカ・ウエー・ハイランド及び監督キツバ氏來朝同選手歡迎會、花月 飛込委員會、事務所 4日水球委員會、事務所 日本選手權飛込競技會第一日 5日日本選手權飛込競技會第二日 東西對抗中等學校水上競技會 6日東西中等優勝校爭霸戰 8日機關雜誌「水泳」第25號發送 11日 12日 13日 日本選手權競泳大會 14日水球委員會、事務所 16日米國選手關西方面へ出發 17日女子部委員會・水球委員會、事務所 18日 19日 日本選手權水球競技 20日米國選手歸京 22日關東女子水泳大會 米國選手送別會、幸樂 23日米國選手歸國の途に就き濱濱出帆 26日 三商大水上競技會、神宮 女子三地方對抗水上競技會 京都 29日常務理事會

九月 1日第二回東京小學校水泳大會第一日 水泳指導者檢定試験、神宮 2日第二回東京小學校水泳大會第二日、神宮 3日安部輝太郎氏渡滿送別會、幸樂 8日全國帝大水上競技會第一日、神宮 9日東部中等學校飛込競技會、東京府青年團水上競技會、全國帝大水上競技會第二日、神宮 10日全國帝大水上競技會第三日水球 11日常務理事會(濠洲グリーン氏と選手派遣の件に就き打合せ)花月 14日 15日 16日 第三回全國學生水上競技會、神宮 20日水球委員會(東西對抗の件)事務所 21日常務理事會(東氏に水泳選手の健康を聴くの會)花月 22日全國學生秋季水球リーグ戦開始、神宮 23日全國學生飛込競技大會、中等學校水球東部豫選第一日、神宮 24日第四回工校水上競技、中等學校水球東部豫選第二日、神宮 27日標準泳法委員會、事務所 28日鶴岡英吉氏渡獨送別會、幸樂 29日東京府中等學校水上競技會、神宮

日は水の、底より暮れて、かれ柳、水をすみかとするカツバには餘りにも蕭條たる冬枯れの天地ではあるが、茲に、年あり一九三四年は一九三五年に移らんとして、愈々ベルリン大會にひとけた近く、吾々は總ての注意を西に向けてその準備工作に萬全の努力を拂はなければならない。

もとより編輯はその最前線を承はるべきものである事を思ふ時、冬枯れの季節とは言へ吾々編輯人は一倍の責任と緊張とを深く感ずるものである。

編輯の秋は實に更け難くして、永かつた。

誠に讀者諸子には申譯ない次第であるが、それには、原稿を督促される快味?をエンヂョイする事の好きな松澤主事が、又してもあの巨大な尻をドツカと据へて、矢でも梃子でもイツカナ動かうとしない、もう、あきらめ様かと思つて居たら『オイ、ヤツト出來たヨ』それでやつと本號を諸子の手許に贈る事が出來たのであるが、あの世界記録の簇出したインター・カレツヂの興奮とドヨメキとを再び本誌に見出して頂いたら編輯子の幸、此の上もない。

ベルリン大會の軒下一九三五年を迎へんとして。選手諸君! 且に霜を踏みて凜たる志氣を感ぜよ!!

本號擔當者 柴田隆二

日本水上競技聯盟機關雜誌 水 泳 第二十七號

定 價 三 十 錢 一年八回發行

豫約申込者に限り預布す (一年前金豫約) (は送料不要)

廣 告 料 十圓乃至三十五圓

御申込次第詳細回答

昭和九年十二月二十三日納本

昭和九年十二月二十四日發行

編輯兼發行人 鶴岡英吉
(日本水上競技聯盟代表)

印 刷 者 君 島 潔

印 刷 所 共同印刷株式會社

東京市小石川區久堅町一〇八

發 行 並 東京市麴町區丸ビル 805
申 込 所 日本水上競技聯盟編輯事務所
振替貯金東京三九九一九番